

京古本やは本

書肆「春和堂」

若林正治さんの思い出

中 尾 堅 一 郎

祇園囃子もまのあたりにうとし
洛南伏見の里に、若林正治さんは
忽然として逝去された。行年七十
三歳であった。如是我聞生者必滅
の定めと申しながら、生前の面影
を偲びしばし黙祷を捧げる。お店
の近くの寺での葬儀は酷暑にも拘
わらず多くの会葬者が列を為し遺
徳を偲び回向された。

京都古書業界として、とりわけ
和洋古典籍に精通され博覧強記の
方を失ったことはまことに惜まれ
てならない。若林さんは京都寺町
二条 書肆「春和堂」若林茂一郎
氏の三男として生まれ、三高に学
び家業を手伝う程に、昭和十年頃
に春和堂の伏見店を開業し新刊を主
として営業されて現在に至って居
られた。生来書物好きであったこ
とが、学生時代には英語学書誌に
興味を惹かれて生涯書痴に通じそ

の学識は広く、古今東西に亘る洋
学関係史料の収集は学界に高く評
価されている。

私の先代とは京都・大阪の古典
会や緑友会等で種々な面で交友関
係があったようであるが、私は昭
和三十年頃、若林さんと堺の諏訪
之森に住む荒木和一翁を尋ねたこ
とがあった。翁は電燈発明者エデ
ソンと心安く、映画を最初に日本
に持帰った人で、明治期には「イ
ングリッシュリーダー」を著述
発行されるなど、英学渡来に活躍
された。明治時代の洋風建築にな
った堺のステーションの六角待合
室を自庭に移し、その中に洋学の
書籍が山積してあった。若林さん
はその部屋に入るや水を得た魚の
如く、丹念に一冊づ、棚から取出
し、家人の夕餉も断り夜遅くまで
余程気に入ったのか一枚のパンフ

季 刊
第 26 号
京都古書研究会
発 行

〒604 京都市中京区
東洞院六角上ル
京都府古書籍商業協同組合内
振替 京都 0-22132
年間購読料 5000円 (送料込)
頒 価 150円

レットに至るまで熱心に見出し探
され、籠中より古写本のオランダ
辞書や洋学和本を見付けて、翁に
請いて風呂敷に包んで喜色方面し
て帰られた姿が思い出される。

丹波橋の書店のお宅へも寄せて
いただき、快よく書齋に通され洋
蘭史料の教えを聞き、しばし時の
経つのも忘れ書物の無我の境に落
ち入ることであった。収集の近世
木活字本の同種異版の原本を取出
して校合説明され、自からの経験
を語られる学識の深さに感服させ
られた。日本の夜明け時代の蘭学洋
学の書籍に焦点を合わせた蒐集は、
異国文化が請来され邦国文化に迎
合された歴史的な研究書である。

一昨年に私がドイツのマイ
ツのグーデンベルグ記念館を訪れ
た折の同館の案内書を若林さんに
差し上げたところ、その館の所蔵
しているインキナブラの原書の
名前から、パーチメントのパラム
影写本、ケルムスコットプレスの
ことまで詳細に語られて、現物を
見てきた私が冷汗を覚える程であ
った。イギリスの「紙魚」(book
worm)雑誌等本の上での知識

を勉強されていたのは、ただ驚
歎したことでもあった。

京洛の地は千歳の歴史を有する
勸学林の都である。その風土と春
和堂という書林環境が、自らを会
得した人生を育てたことであろう。

晩年は自から京都古典会の発展に
寄与されて後進の指導に当られ、
また京都古書研究会の若人の育成
に「古本よもやま話」を七回に亘り
同志に執筆されるなど、これから
も学識と経験を披露されと期待
していたがまことに残念である。

而し、和漢洋書に通じる道は、本
屋は先ず理論的な書誌学を学び
体系づけて、従来の勘を頼りでは
なく、知識と眼識を養うことであ
ることを若林さんから学び教えら
れたのである。

月例の京都古典会市へは京阪三
条駅から自転車一本を積んで古書
組合へこられ、市場で落値の発声
をお元気でされ、帰りには三条高
瀬川辺で、好きなお酒を嗜まれた
風情は再び見られない。三条大橋
加茂川風景も地下鉄工事の喧音で
変ることであろうが、真面目な学
究肌の商人であつた若林さんの姿
を懐かし私は忘れられない。ご冥
福を祈る。

合 掌

(著者紹介)

中尾松泉堂書店主人、大阪古典
会々長、ABA J(日本古書籍
商連盟)会長

古書のご整理は 京都古書研究会加盟店

赤尾 照文堂 電話二二一五八八
石川 古本 電話二二五五
井上 書店 電話二二五五
其 中 電話二二五五
京 極 書店 電話二二五五
沢 密 書店 電話二二五五
三 ヴァン 書店 電話二二五五
シルヴァン 書店 電話二二五五
大 岡 書店 電話二二五五
竹 岡 書店 電話二二五五
谷 岡 書店 電話二二五五
東 方 書店 電話二二五五
外 山 書店 電話二二五五
萩 田 書店 電話二二五五
福 井 書店 電話二二五五
藤 井 書店 電話二二五五
文 庫 書店 電話二二五五
文 庫 書店 電話二二五五
八 木 書店 電話二二五五
山 崎 書店 電話二二五五
臨川 書店 電話二二五五

歌舞伎通史の形成

『歌舞伎事始』の場合——(二)

広瀬千紗子

五

『歌舞伎事始』の凡例は各巻の内容を次のように要約している。

●初巻は芝居通、諸(もろもろ)の由来、古事、来歴、芝居名代女舞、小芝居に至るまで、委しく記す。

●第二巻目は芝居一式の居所の器物等を弁す。

●第三巻目は、舞一通、諷物(うたいもの)の秘文等を詳(つまびらか)にす。

●第四巻目は、古今役者の部類、寛永より元禄年中までの至極上手名人と呼ぶ、立者の分は悉く其風体を絵図に顕はし、(略)

又おく(奥)に古人の金言、教訓、地芸、所作事等に至迄、佳境を演(のぶ)る。

●第五巻目は、古の狂言作者、囃子方、小歌の作者附、かぶき芝居の三味線の流義差別を正す。

みての通り、各巻は個別に、歌舞伎の由来、劇場、道具、舞歌古今の名優とその芸談、作者、囃

子方、などのテーマで解説がほとんどされており、役者中心の先行書『古今役者大全』に比して、はるかに内容は多岐にわたっているの

であるが、これらのなかで、いま詳しくみてみようとするのは、初巻に配された「古事」「来歴」についてである。巻一には、さらに細目があり、そのうち、

●歌舞伎来由

●物真似狂言尽濫觴

●歌舞伎芝居来歴

の三項が、小稿にいうところの、通史にあたる部分である。「来由」は天鈿女命の俳優(わさおぎ、こ

こでは演技の意)を歌舞伎の根元とし、お国に出雲大社の巫女とみなして、その舞もまた「神代」の俳優を濫觴(うたがひ)したものであるといい、信長・秀吉もこれを御覧になり、「貴人高位の御膝辺までも参りたる事」が述べられる。これに並行して「濫觴」では、「狂言」の語にこたわり、をみせている。すなわ

ち聖徳太子が神代の故事にもとづいて作ったという「十六番の物真似」に発した「おかしき物真似」をする申樂を「今の狂言」の前身

とみなし、申樂は「狂言綺語を以て人を教え」、「狂言づくし」とは「其業を真(まこと)に似せて勸善懲惡を旨とする」と説くのである。そして「来歴」は、さきの

「来由」の後半に重なるようにして、お国の活動から始まり、お国山三の信長上覧、北野社前の舞など「来由」よりは詳しい記述によつて綴られ、二代目お国を登場させた後、承応三年(一六五四)

までの、五条河原・四条河原における興行の推移をたどっている。つまり、信長・秀吉時代の天正・文禄期で、「来由」と「来歴」をつなぎあわせると、お国の出現以前と以後を通じた俳優の歴史の延長としての、歌舞伎通史になり得ているというわけである。

もちろん、これらの記述のすべてを、そのまま信することはできないが、少くとも本書なりに辻褄の合った通史の把握を意図していることは察せられる。ことに、お国出現以後の事象については、ひとり本書の独断ではなく、拠るべき先行の文献があったことが明らかである。その最も著しいものが『雍州府志』であり、ほかに『山州名跡志』からも若干の記事が採取されている。『雍州府志』は黒川道祐著、貞享元年刊、『山州名跡志』は坂内直頼(白慧)著、正徳元年刊の、いずれも、貞享頃以降の京都で多数著わされた「地誌」である。すなわち、本書の通

史が綴られるにあたって有益な材料を提供していたのは、既刊の地誌だったのである。そこで、いさ

さか煩瑣になるのをお許し願つて、以下のように、本書巻一の「来由」「濫觴」「来歴」の記事を年次順に追いつつ、これらを通じて認められる、先行文献の採取の仕方を、その該当する箇所を掲げて、実際にたしかめてみることにする。

六

著しい採取はお国出現以後のことになるが、それ以前に一例だけ、貞和五年(一三四九)の、群集のために棧敷が崩壊したという、四

条河原の勸進田楽興行の記事がみえている。この一件は、いわゆる棧敷崩れの大田楽として著名で、『太平記』の記すところでもあるが、「濫觴」及び『雍州府志』によれば次のごとくである。

●人皇九十八代崇光院の御宇、貞和五年六月將軍足利尊氏公、四糸川原に仮席(きすき)棧敷(さじき)をかまへ、田楽を観給ふ。それよりして俳優の地たるもの也。(略)尊氏公是を好ミ給ふ。御舍弟直義卿諱たまへば(下略) (『濫觴』)

●貞和五年六月足利尊氏公構棧敷、於四糸河原、観田楽、直義公諱之(略)則四糸河原者、室町家時既為俳優場 (『雍府』)

すなわち、時・所・人・事において、一致しているのは明らかである。この記事程は、事実関係のはつきりさせ難いものも含まれてはいるが、次の記事以後に、お国の動静は現われはじめるのである。

●扱また人皇百七代正親町院の御宇、永禄年中、出雲国大社大破に及びしによつて、於国といへりし巫女、国々在々へ修覆勸進に廻る。(略)於国八神代の俳優を濫觴して数度舞し也。(略)又爰に名古屋山左衛門といふ御抱の人ありき。元来江州佐々木家の浪人なりしが(略)ときに山左衛門於国が艶色になづみ、於国ハ山左衛門に心をかけ、たがひに密通す(下略) (『来由』)

●又一種有歌舞伎者。元出雲大社巫女、有号国女者、一転神楽而歌舞、是古所謂白拍子之類而、元神楽之変風也。永禄年中、有名護屋三左衛門者、元武人而落魄生也。在京師、則与国女密通、共謀之作歌舞伎之曲 (『雍府』)

▼天正九年九月九日「やつこおとり」初見(御湯殿上日記)

▼天正十年五月十八日「国」初見。(多門院日記)

▼天正十六年二月十六日「出雲国大社女神子色々神歌、又小歌等舞。」(言繼卿記)

「出雲国大社女神子色々神歌、又小歌等舞。」(言繼卿記)

「出雲国大社女神子色々神歌、又小歌等舞。」(言繼卿記)

●夫より文禄慶長にいたり、洛東祇園南林におゐる場(には)をひらき、これを催ふ。山左衛門と於国が中に娘ありけるをともなひ、連まひを仕たりける。

〔来歴〕

●於洛東祇園社南門、開場催之、是歌舞妓之濫觴也。〔雍府〕

▼慶長五年七月一日

●近衛殿ニテ晩迄雲州ノヤヤコ跳、一人ハクニト云、菊ト二人(時慶卿記)

▼慶長八年五月三日
なごや山三郎、作州津山にて没。

▼慶長八年五月六日

「かぶきおとり」初見。(慶長日件録)

●其後五条橋の南、(今云問屋町さや町の辺也)にて、娘に国の名を譲り、芝居興行せり。是を世にお国かぶきといへり。〔来歴〕

●芝居元在五條橋南 〔雍府〕

●昔ハ今ノ五條川原橋ノ南ニアリ 〔山跡〕

●右二代目の国女五条にて芝居興行せし時、嶋田万吉といふ女あり。才智なるものにて、ともに是をはかり、女名代といふ事をはじめ、浄瑠璃あやつりをなし、切まくをも始たり。〔来歴〕

●歌舞妓ハ慶元ノ比、出雲神子ニ云恭仁(くに)ト女上洛シテ、為女踊、称之。寛永ノ比ハ住京、

云島田万吉ト女、切幕為浄瑠璃操。 〔山跡〕

●其比六字南無右衛門といふ女夫、おなじく操りを興行す。則上るり、河内介、上総介也。其後浄瑠璃太夫、左内、宮内と相統す。

〔来歴〕

●河内介は浄瑠璃太夫受領之始也。次郎兵衛後称上総介、自茲左内宮内相統而盛行 〔雍府〕

●又佐渡嶋坊(初ハ与三次といふ)といへる者あり。能芸の妙を得て、遊女に比わざをほこす。

●自茲遊女長佐渡島某、使遊女妓者歌舞并施能芸 〔雍府〕

▼慶長七年五月

六条柳町遊里設置。

●扱国が芝居の場所も、伏見の御城より秀吉公、京都に入給ふに、此所くんじゆ(群集)する故、御上洛の節、さまたげを成にやり、四条中嶋へ替地を仰付らる。

〔来歴〕

●芝居元在五條橋南、豊臣秀吉公、自伏見城、入京師之路也、故嫌其喧雜、移今四條河原〔雍府〕

●昔は今ノ五條川原、橋ノ南ニアリ。秀吉公伏見ニ住シテ、上洛ノ時ハ必ス此橋ヲ往返シ玉へり。芝居アルヲ以テ今此所工移サル 〔山跡〕

●其後元和年中、時の御奉行七ヶ

の矢倉を敷し給ふ。右七ヶ所の外、矢倉を構ゆる事能はず。矢倉なきを小芝居といへり。其とき初て今の四條川東に芝居建けり。 〔来歴〕

●曾、板倉伊賀守勝重、為京尹時、免櫓七箇、七箇所芝居之外、不能構之、無櫓者、称小芝居 〔雍府〕

●又寛永年中に、佐渡嶋坊に習ひ得たる、六条の遊女等、芝居能といふ事を、其此所々にてこれをなす。扱歌舞妓芝居にハ故あつて、女芸者を禁じ給ふ。是により小性を以て、女形に仕立たり。 〔来歴〕

●良賤群集而見之(遊女歌舞妓)誠誑人心者、無過此、於茲、禁女芸。 〔雍府〕

●又六条ノ遊女、為芝居能 〔山跡〕

▼寛永六年十月
女歌舞妓の禁令出る。

●扱又女をまじへ、芝居興行する事、御制禁になりし後、都万太夫(今の芝居名代都半太夫先祖也)といへる美少人を、女形に仕たて、専、京嶋原傾城買の狂言をしたりける。 〔来由〕

▼寛永十七年七月
六条柳町遊里、朱雀野西新屋敷へ移転、島原成立。

▼承応元年六月
大阪にて若衆歌舞妓禁止。

▼寛文八年七月
町奉行体制を敷く。

▼寛文九年正月
諸名代赦免される。

右の通り、本書の記事と、地誌との関係はきわめて密接であり、個々の記事は、この時代の通史にとつては、いづれも、それなりにエポックメイキングとしての意味を担っているものである。したがつて、歌舞伎の成立過程で、記憶に留むべき事件は、すでに共通の理解が得られており、その理解を大きく踏みはずさない限り、本書の主張は受け容れられる素地をもっていると言える。実は、このような既成の記事を、たくみに組み入れて通史を著わしている本書には、いまひとつの主張が含まれていのように思われるのである。

七

「来由」「濫觴」「来歴」の中で、先行文献に拠つて史的展開が述べられた後に、必ずつけ加えられるのは、要するに「貴人高位の御膝辺まで参りたる事」や、「賢愚邪正の体を狂言にわかし、五常五倫の道をやわらげ人をおしゆる」との説である。そして、歌舞妓狂言は「臣下は主君に忠をはげし、子ハ親に孝をなし、女ハ貞節の道を守り、姑は嫁を憐れミ、継母ハ継子を産の子よりもいづくしミ、

ま、子ハ隔なく孝をつくし、兄弟中よく、朋友傍輩のまじはり偽りかざる事をやめ、義をたて信の道を專にして、人を恵ミなど、上手の役者のする芸風俗(けいぶり)を見て、是を鑑として道を学びうつし、心を直になさば、誠に身の為に益有べし」と、良いことづくめを平然と述べたのである。言うまでもなく、芸能者が賤視され続けて来た者たちであることは、当時の通念としては常識であるが、であればこそ、本書はここで永年の通念を一挙にくつがえさなばかりに、彼らの出自についてその賤しからざる所以を力説する。その本音とも言えるのは、次のような筆致によくあらわれた部分であろう。すなわち「惣じて役者たるものハ川原ものと悪名を付、又ハ穢れし身などいやしむ、大に相違なる事也。たとひ田舎芝居勤る役者たりとも穢ハしきものと雖(まじ)ハる事曾てなし。(略)」

舞台つとむるもの、常に身を清め天下太平国土安全の政を業とする也。世のわるくち聞にうとましくこ、に其詠を記し侍る」と。「政を業とする」ような演劇が面白くろうはずはないが、「世のわるくち」に対しては、事大主義を持ち出して応酬し、自らの正統性を主張する。本書において通史が書かれた理由はここにあり、整然たる史的展開は、その伏線でもあった。(愛知女子短大講師)

京都古書研究会会員

店と人

シリーズ

第五回 京都市西部・大阪

前号に引き続きお届けする店と人シリーズの第五回は、京都市内の西部にある店と唯一の市外の会員を御紹介していきたいと思えます。

文庫堂 飛田昭雄さん

今年春より当研究会会員になられた飛田文庫堂さんは、大宮出水の西南の角にあります。大宮通といってもこのあたりはトラックがやっと通れる位の細い道で、まち中の本屋さんという雰囲気のお店です。

御自慢の自筆の看板を見て中へ入ると、少し狭いめの店内には、本が目一杯ならんでいます。文庫新書（軟カバー）から硬いものまで、

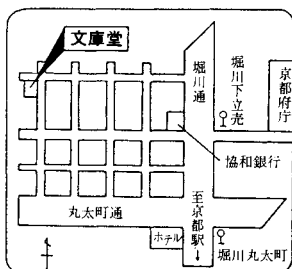


美術関係書、歴史書、そして人文系の一般書を中心に、学生向け風の良書が棚に納められて、なかなか面白い品揃えで、見ても飽きません。

飛田さんは、この商売をはじめから足かけ四年目。最初のうちは自分の蔵書などをならべていたそうですが、現在は棚も増えて店内ギッシリ。一方目録のほうも三号を数え、最新号には千点近く掲載されています。またこの他に、「そくほう」という名の速報が不定期に出されています。ちなみに第三号の目次は美術関係、工芸、建築、民俗、郷土資料等々十項目にわたって、ますます充実をはかっています。

少し細身を髪を伸ばし、いつもジーンズをはいていて、どこか詩人ばい風情の飛田さんは、今年三十六才の歳男をむかえての張切は今後の活躍が大変期待されます。営業時間は午後一時より八時まで。定休は毎週水曜日と毎月25日。ぶらっと入ってみても、意外な本に巡り合うかもしれないお店ですので、一度訪れてみてはいかがでしょうか。

しようか。(尚、道路に駐車スペースがないので、その点御配慮下さいとのことでした。)



東方書店 畠山慶雄さん

東方書店さんは、書店とはいえないながら、店舗なしでやっておられる古本屋さんです。京都にはわり



あい店舗なしの古書店が多く、通信販売や即売会を中心にして営業していて、東方書店さんの場合は即売会としては、京都丸善のほか

当研究会の古本まつりなどに出品されています。

扱われる商品は凡ゆる分野にわたっていますが、特に資料的なもの(雑誌類、報告書等)と教育関係の書物に力をいれておられます。また、古本まつりなどでは、趣味的なものを中心にして出店されています。

御主人の畠山さんがこの商売を始めたのは昭和33年。古書研では年長組にはいますが、ますます元気で張きつておられます。お子さんは男一人、女二人で五人家族。これからの成長が楽しみです。

それから、毎月25日の北野の天神さんの日には、露店を出して、漫画や雑誌、一般書など(時には掘出し物もある)を商っておられます。日焼した顔にハンチングの似合う畠山さんを見かけたら、気軽に声をかけてみて下さい。

京極書房 藤原 学さん

京極書房は、四条御前から南へ入っていった仏光寺通にある壬生京極商店街の中段にあります。(詳しくは本号末尾の京極書房目録の地図をご覧ください。)

京極書房とは耳なれない名前かと思いますが、以前まで藤原北御所書房の二男の藤原学さんが独立して、京極書房となられました。



往来におきましては初御目見得ですが、独立店舗を構えられたのが去年の八月で、開店以来一年少したっています。

店内は商店街の人通りに合わせて、雑誌、小説、漫画、それに婦人向けの本などがならべられています。黒っぽい本が少なうい本と思つてよく見ると、そういう本は、カウンターがわりの机の向こうに書棚が二つ三つあり、その中に納まつておりました。お話によりますと、最近は居間と言わず、台所と言わず、本に占領されてしまっているそうです。

それらの本が顔を出すのが、即売会(近鉄など)と目録。専門は文学関係で、文学論、作家論、詩集、初版本などが中心です。目録のほうは京極書房の名前で、すでに長年出されていて、現在は二百点前後のものが随時出されています。

三十代半ばの藤原さんは目下、店に一人住い。ちよつとした外出にも鍵をかけなくてはいけないの

でなかなか大変そうです。本屋歴のほうは、高校の時からアルバイトで勤めていたので、ざっと20年。その間には、東京で過した時期もあり、北御所書房に戻って親父も



んと兄さんの許であと、今回の独立となったそうです。(早く身を固めてしっかりと一家を構えてもらいたいと、他の全会員一同願っております。)

営業時間は、午後1時より9時まで、火曜と金曜は5時より9時まで、また定休日は第二金曜ですが、何分一人ですので、御来店の際には一度お電話下さい、とのことでした。

八木書店 八木正吉さん

千本丸太町の交差点から丸太町通にそって150mほど西へ行くと、南側に八木書店があります。

ここのお店は主力が即売会と通

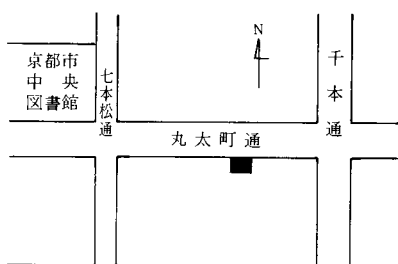


信販売。即売会は、近鉄と丸善に出店しており、扱う商品には特にジャンルはなく、古版本、墨蹟、古文書、それに初版本等々が集められていて、なかなか面白いといえましょう。目録のほうは、いまのところ、往來の広告ぐらいで個人目録は出しておられないそうです。

さて、店内の様子は、といえば現在は新刊の雑誌が中心にならべられていて、棚には洋装本の古書が納められていますが、即売会などの商品は、全て倉庫にあり、店には顔を見せてはいません。

大正生れの八木さんは、戦後すぐに古書店に勤める知人にすすめられて、今と同じ場所で開催されました。現在は、長男の俊光さんと共に経営しておられ、八木さんも心丈夫。ちなみに俊光さんは、前に紹介しましたテニスの名手赤尾さんもかわないほどの腕前と

か。
営業時間は朝10時から夜10時まで。定休日はありません。



千本丸太町から西へ歩いて3分

臨川書店大阪店 久保田厚生さん

阪急梅田駅の大改装にともなって生まれた「かつば横丁・阪急古書のまち」は、もう九年目をむかえ、夙に有名となりました。十数軒の古書店街の中心、西側に臨川書店大阪店があります。本店は、京都今出川通川端にあり、現在は出版専門となり、古書部門が大阪へ出店したというわけです。

古書店とは思えないような、美しいショーウィンドウの中には、内外の稀覯本や自筆ものなどがきれいに並べられており、店内には人文系の学術書、資料が集められていて、特に専門化はされていない品揃です。

ここ大阪店の開店時から店長である久保田さんは京都時代も含めこの通十七年の中堅どころ。最近、番当格の矢野さんに店のまもりを任せて久保田さんは、専ら仕入や評価、そして何より、幅広くかつ奥深い知識を得るための勉強に精を出している、とのことでした。特にお客さんからは、聞きだせるだけ聞くように努めているそう、また一方では、目当ての本がなかった場合には、お客さん



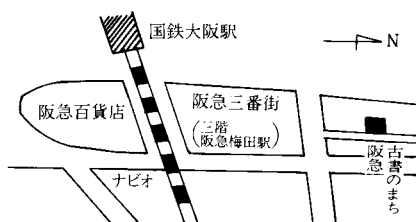
に對し情報を提供して、接点作りにも心がけておられます。

万年青年タイプの久保田さんは、現在二人のお子さんを持つ四十四才の父。学生時代に知り合った奥さんは、美人との噂です。

営業時間は午前11時から午後8時までで、古書のまちの一斉定休日は毎週水曜日です。

梅田に出られた際には、三番街

を北へ通りぬけて、古書のまちの散策をお楽しみ下さい。



阪急梅田駅北口から北へ歩いてスグ。

以上をもちまして、当シリーズも現会員を全店紹介いたしましたので、今回でひとまず連載を終了致します。永らくの御愛読、有難うございました。今後とも会員店を御愛読いただきます様、お願い申し上げます。

(文・写真) 三浦了二 (其中堂)

(尚、市内一円の古書店の地図、「京都古本屋地図」を発行しておりますので、古書散策に御活用下さい。慶長版京大絵図を模した地図に京都の古書店八十八店が印され、裏面には夫々の専門分野が示された広告が載っています。送料 共四二〇円)

寄稿

ドイツ古書渉獵の旅

赤阪俊一

今年、一月中旬から三月中旬まで西ドイツ各地の古書店を回ってきた。今回の渡独目的は実は古書店巡りではなく、ケルン市で資料を探索するためであった。ところがケルンの文書館ではクラウス・ミリツァー博士の尽力により、思いのほか早く仕事が片付いてしまったので、筆者が専門としている中世都市史文献、とりわけ日本では手にし難い小都市についてのまとまった研究文献を入手するため、ドイツ各地の古書店を回ろうと思いついたわけである。以下、筆者が回った古書店の一部を紹介しておくことにしたい。

アウグスブルク 有名なアウグスブルクの大富豪フッガー家関係のものが欲しかったので、アウグスブルグへ出かけてみたが、この町は成立してから二千年という古い文化都市でありながら、古書店の数はわずかに四軒であった。

まず市庁舎にもっとも近いシャルンホルストというところに行ってみた。置いてあったのは背表紙が革装か布装の立派なものばかりで大半が第二次大戦以前あるいは十九世紀のもので、表紙がかなり

すりきれていっているものも多かった。タイトルをずっと眺めても、そう面白そうなものはない。ただ古いだけの取り柄といった感じの本ばかりが並んでいた。私には初版本や希覯本を集めるといったような趣味はないので、こうした本の集積は何となく鬱陶しく思えてしまう。

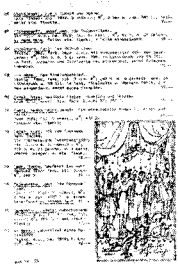
店そのものは幅六、七メートル、奥行が十二、三メートルの大きさで、ちょうど真中の両サイドに大きな本棚をせり出すように置いて、店側と奥の側とを仕切り、奥の部分を仕事部屋風にしていた。本は表側の部分にだけ置いてあるのだが、本棚にぎっしりと並んでいるわけではなく、ぼろぼろと歯が欠けたような具合に並べられているので、背表紙が立派な割には店の中が何となくみすばらしく見えてしまう。

ここでの收穫は、W・ヴィンカーの「富者ヤーコブ・フッガー」を十八マルク（そのころ一マルクは八五円であった）で手に入れたことぐらいである。この本は一九四〇年出版でかなりポピュラーなものだが、実物をみたのはこの時

が最初であった。

次にバイヤーという本屋さんのぞいてみた。この本屋は旧市街の東端にあるヤコブ塔という塔の中にあると聞いたので、さぞや由緒正しく立派なところだろうと胸をワクワクさせながら行ってみたが、何のことはない露店に毛の生えたようなところで、本の数もいたって少ない。店は五〇歳くらいの女の人が一人でやっていた。二カ所にわかれていて、一つには普通の古書が置かれ、もう一つにはマンガとかポケット本の類が積まれていた。恐らく子供が若者を相手に商売しているのであろう。普通の古書が置かれている方には普通段は鍵がかけてられていて、頼むとわざわざあけてくれたが、本の数が少なすぎるので何も探しようがない。全部で千五、六百冊ぐらいではないだろうか。数が少ないうえに、鉄道、岩石、薬学、旅行、経済といった具合にまったくまとまりがなく集めているので、辺鄙なところを回っている巡回図書館のような感じである。

面白いことにこんな小さな本屋



バイヤーの手作り風カタログ

でもカタログを出している。店番をやっていたおばさんが自分でつくって、かわいい挿絵がところどころに入っている、いかにも手作りといった風情のカタログであった。多分このカタログには店内のすべての本のタイトルがまとめられているのではないだろうか。三つ目に行ったところはシュライヤーというところで、あまり期待もせず散歩のつもりで歩いて行っただけだが、今回は嬉しい期待はずれで、この店は地方史関係書を主として扱っているらしく、アウグスブルク関係書——いわゆるアウグスターナー——がかなり置かれていた。ここで手に入れたのはch・マイヤーの「アウグスブルク市史」これは今世紀初頭に出版されたものなのでまさか入手できるとは思っていなかったが、わずかに二〇マルクであった。さらにアウグスブルク史の大家ベルニッツの「ヤーコブ・フッガー」も四〇マルクで買ったが、ベルニッツのものは「フッガー家」と「アントン・フッガー」をアウグスブルク市内の新聞書店で先に手に入れたこと、ベルニッツの代表的著作が全部揃ったわけである。シュトリーダーの「富者ヤーコブ・フッガー」もカタログに載せられていたが残念ながら売り切れていた。

この店のカタログ（写真②）も素晴らしいもので、「つい最近つ

写真② シュライヤーのカタログ



Schreyer - Augsburg

くったものだ。」といって渡されたカタログは「ドイツ地誌」と題されており、総タイトル千七百冊を含む堂々たるもので、ドイツ全地方史関係が集められており、数は少ないもののペーメンやメーレン、さらにはアルザス・ロレーヌ地方までもが項目としてとりあげられている。地方史を研究している人にはこのカタログはかなり役に立つのではないだろうか。

この店の営業時間は、月曜から金曜までが午後二時から午後六時まで、土曜日が午前九時から午後一時まで、日曜と祝日は当然ながら休業。私が最初訪れたときはまだまだ営業していたが、翌日再び行ってみるとカーニバルのため五日間休業すると貼紙が貼られていた。このような古書店の営業時間の短かさはここだけの話ではなく、ドイツ全土でみられる現象であることはその後あちこちの古書店を回ってみてよくわかった。日本の古本屋さんの営業時間の長さとは対照的である。

四軒目の店はシュミードガッセという横丁にあったのだが、メモ

を失くしてしまったので店名は不明である。ここはポケット本を専門に集めていて、そのポケット本も推理小説やハードボイルド、SFといったものが中心で、店内は若者のたまり場のような感じであった。

ニルンベルク ニルンベルクへ着いたのはカーニバル——このあたりではファッシングと呼んでいたが——の最中で、奇妙な化粧をしたり、道化た服装をした人たちが町中にあふれており、露店も相当数でいた。

ここにはかなり有名な古書籍商が市庁舎の近くに店を開いていると聞いていたので、このKrone、M+M、という奇妙な名前の店だけみることにし、浮かれ騒いでいる郡衆の間を三〇分ほど探してやっとみつけた。呼び鈴を押して扉をあけてもらい、中へ入ったところ、何となく普通の本屋さんとは様子がちがっている。広々とした部屋には、真中に上等そうな机がボツと一つ置かれているだけで、本はどこにもない。店主にきくとここは十九世紀の希覯本を専門に扱っている店で、本はすべて二階の倉庫にあるという。置いてある本は値の張るものばかりらしいので、早々に退散することにした。

この店主に、「ニルンベルクでもっとも大きい普通の古本屋」の住所をきいて、次にはそこに行っ

てみたが、その住所のところに新刊書店しかない。仕方なく店の人に「古本は扱ってないですか」ときくと、店の奥の方にあったドアをあけてくれて、そこから二階へあがっていった。二階にもまたドアがあつて、あけてもらうには呼び鈴を押さねばならない。これだけ苦労した割には、この蔵書の内容は貧弱なものであった。ここでは、E・ルツの「南独商事会社」の法的構造」がわずか八六マルクで売られているのを発見。あと二冊購入し、合計百九十マルク払おうとしたら、九マルク値引きしてくれした。ドイツの古本屋で値引きしてもらえたのは、あとにも先にもここだけであった。

ミュンヘン ミュンヘンはバイエルン州の首都であるせいか、大学都市である関係が、さすがに古書店が多い。全部で三〇は下らない。その全部を回るのはできなかつたし、またその一つ一つを紹介してもつまらないので、特色のある古書店だけをいくつか選んで紹介してみることにした。

○カンスラー 自然科学専門書店。全体があざやかな緑色に塗られたドイツには珍しい平屋建て店舗で、一見プレハブ式の仮設住宅のようにみえる。内部にはまだまだ真新しい本が整然と並べられていた。エコロギー関係が多かったが、この店の緑色の外面塗装は、列車内の緑色の禁煙席シートや「緑の党」

と同じようにエコロギー的主張の象徴なのだろうか。

○ゴルツ 芸術、とりわけ絵画関係専門書店。あの有名な聖母教会のちようど前にあり、立地条件は最高なのであるが、いつみても客が入っているのを見たことがない。多分豪華なばかりを集めているせいであろう。

○バージス 社会科学、とくに政治学を中心に集めている本屋である。ここは西ドイツの古本屋さんには珍しく、計画経済、アナキズム、マルクス主義関係書がジャンル分けして並べられていた。

○アッカーマン この本屋さんがあるルートヴィヒ通りにはバイエルン国立図書館がある。その図書館よりわずかなめ南にこのアツ

聞きがき

「昭和古本販売史」の企画

当誌の初めの頃の号に「古本よもやま話」を連載いただいた若林正治(春和堂伏見店主)さんが、此の夏の始め亡くなられたとき、正直「しまった」と思った。この先輩から私達はまだまだ習うことが残っていた。長年にわたって蒐集された珠玉の古書籍の中にわけ入って、自分の手にとりながら、氏の手ほどきを受けるのを期待していたのである。

京都の古書業界では、こ二十数

カーマンがあるのだが、ここには歴史関係書が多く集められている。当然ながらバイエルン関係の歴史書がもっとも多く、表の部屋のレジのうしろの壁一面がバイエルン関係書——いわゆるババリカー——でうめられていた。

○ヴェルフレ この店ではじめてカタログの代金を請求された。「子供の本」「文学」「歴史」の三種類のカタログがつくられていて三部買うと二〇マルクで、一部だけだと八マルクだという。このうち「歴史」と題されたカタログを買い、めばしいものをリストアップして早速翌日行ってみたが一冊しかみつからなかつた。この売れ残っていた一冊は、W・メーラーの「一三七四年のブラウンシュヴァイク

年の間に多くの長老が亡くなられた。竹苞楼、京阪書房、大書堂など、どの御主人も明治に生まれ、大正・昭和と激動の業界に生きてこられた方々である。夫々の店舗は並派に継承されてはいても、ご本人の人生と、その一生のほとんどを捧げられた古本との思い出は葬られてしまった。

古本やの思い出はそのまま古本販売の歴史でもある。昭和の始めの円本ブーム、教科書の販売合戦、

蜂起と他都市に対するその影響」で、一九〇九年発行の博士論文である。数年前にブラウンシュヴァイクについて調べていたときに、ブラウンシュヴァイク市の文書館にコピーを依頼したが、どういうわけか手に入らなかつた本なので、嬉しにはがきがないかつたが、これ以外には一冊もみつからず、全部売れてしまっていたのにはいささか気落ちさせられた。何しろこのカタログが発行されたのは三年前も前の一九八一年で売れてしまつていても不思議はないのだが、こういうのを八マルクで売りつけるというのは商道德からの逸脱といえるのではないだろうか。

(親和女子大学講師・西洋史)

資本全盛時代、戦時中の価格統制や古本の消毒問題、終戦間もない頃の活字欠乏による古本ブーム、カストリ雑誌の時代、旧貴族の大規模売却立て、宅地ブームにのつた全集や豪華本の全盛、そして昨今のマンガブームから活字離れなど、古本屋はこうした波の中に一喜一憂してきたのである。

幸い京都では明治生れで、昭和の全時代を古書の商いに従事されてきた御店主が、まだ多くさんおいである。

そこで編集部では、昭和を中心にした古本の販売史を、京都の古

(次ページ下段へ)

古書研だより

第八回「古本まつり」

今年も百万遍に古本村誕生

(十一月一日～五日)

秋の京都はまつりが目白押し。その中でも最近すっかり名物行事となったのがこの「古本まつり」。広い境内に松の緑に囲まれて会員古書店が点在する。今年は一十

月一日より五日間過去最高の二十一家が参加して開催。十数万冊の本がそれこそ山積みされる。とくに今年は「古本供養」の原点を見直そうと、不要本の提供に会員は

東奔西走。これが供養のあと再び愛書家の手に渡ってゆき、その売り上げ金は子供達への本の購入金として寄贈される。さらに同会の発足以来の運動「子供達を本好きに」の趣旨により「児童書コーナー」を特設する。おなじみの「チャリティーオークション」も良品を揃えて皆様の元気を待っています。

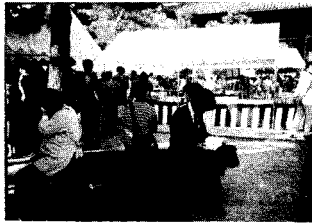
「入札セール」「均一本セール」も昨年以上に内容を充実、まつりの本部「村役場」もサービス向上

今年もこんな風景が

— 昨年の「古本まつり」より —



(上) 会場入口 (京大北門前)



(下) 熱気ムンムンのチャリティーオークション



(下) ウーン! なんぼ入れようかな 入札コーナー



(上) 鐘の音を聞きながらちよつと一服 (右) 集印帖片手に古本村めぐり



「即売会」
○第63回近鉄即売会
11月23日(金)～28日(水)
【目録】
○「阪急古書の術九周年記念目録」
ご希望の方は臨川書店まで
(展覧会)
○「松平定信」展(無料)
10月19日(金)～11月14日(水)
天理図書館(天理市柚之内町)
(電)〇七四・六二二・五一一
○「日本の医学・千年展」(有料)
10月6日(土)～21日(日)
思文閣美術館(京都市左京区)
(電)〇七五・一七五・一一七七
○東京芸術大 展

編集後記

○京都の古書界では古書の蒐集と知識において泰斗で、私達の師と仰いでいた春和堂伏見店主人若林正治氏がこの七月九日逝去された。当年七十二才である。氏については当誌巻頭で多忙の中、中尾堅一氏をわずらわして追悼の一文を賜わった。

(前ページより)
書店主の思い出話の中からつづつてゆくことを企画した。取材がはかどれば「聞きがき・昭和古本販売史」と題して次号より連載の予定である。読者の皆様からも思い出話などお寄せ下さい。(編集部)

若林氏には本誌の二号より七号まで、そして九号と十四号にそれぞれ「英和字彙との出会い」「本の英文典の事」「蔵志と解体新書」「書籍目録の事」「吾多尼河経地の事」「天理図書館の善本稀書」「初版、再版の事」を連載していただいた。時々体がすぐれず、締切を気にしておられたことが、今となってはとも申しわけない思い出になってしまった。十五号以降筆を執っていただけだったが、健康さえ回復すれば、書くことはまだまだあるとおっしゃっていた。私達はあの膨大な蔵書を垣間見る喜びで若林氏の健康を待っていたがついにそれも聞けなくなった。本誌が三号雑誌に終るのをいつも心配しながら原稿を下さった氏に改めて深謝の意を表し霊の安からんことをお祈りします。

○今秋は京都の古書界は大忙し。古書組合創立六十周年の大会や記念事業、そして古本まつりと多彩な催し。古書の動きも活発であり、古本漁りには絶好のチャンス。どうか書齋から飛び出して古書との邂逅をお楽しみ下さい。

〒606 京都市左京区浄土寺西田町八十一
法律・経済・思想
一般書
竹岡書店
電話(〇七五) 七六一・四四五
振替 京都 五一四二六二

31	資料カルピンスキ ソヴェト国家論 南	昭25	二、〇〇〇
30	性 戦	昭5	二、〇〇〇
29	ワイニングル 性と性格 村上啓夫譯	昭11	二、〇〇〇
28	氏族社会	昭21	二、〇〇〇
27	近代中欧の自由と民族	昭41	二、〇〇〇
26	マックス・ヴェーバー民族発展の論理	昭18	三、〇〇〇
25	戦後精神の極致を語る萬有記憶論 瀧澤	昭11	一、〇〇〇
24	唯物史観講話 (一) (少痛)	昭23	一、五〇〇
23	唯物史観講話 永田広志選集 (少痛)	昭23	一、五〇〇
22	支那思想史・日漢文明異同論 (少痛) 山路	昭40	二、〇〇〇
21	ポンテイル 弁証法の冒険 滝浦、木田他	昭47	四、〇〇〇
20	ヘーゲル論理学研究 松村一人	昭22	二、〇〇〇
19	原初論理学ヘーゲルのログスの発展	昭22	二、〇〇〇
18	獨逸精神史	昭16	二、〇〇〇
17	自伝的戦後史	昭50	一、五〇〇
16	ゴッホルと日本美術	昭18	二、〇〇〇
15	海と人	昭12	一、〇〇〇
14	近衛文麿公を語る	昭12	一、〇〇〇
13	新島襄集 第七巻 片鱗集	昭25	一、五〇〇
12	内村鑑三思想選書 V 教義篇	昭24	一、五〇〇
11	出雲における小泉八雲	昭10	一、五〇〇
10	近江の兄弟	昭12	一、三〇〇
9	根性の実業家 住友を築いた実力者 神山	昭17	一、五〇〇
8	飯沼正明 世紀の鳥人	昭39	一、五〇〇
7	大谷竹次郎 (一業一人伝)	昭18	一、三〇〇
6	赤穂の松岡を語る (日本講演通信)	昭9	一、〇〇〇
5	大久保利通	昭18	一、〇〇〇
4	伝教大師	昭18	一、五〇〇
3	アラシ その人と風土	昭19	二、〇〇〇
2	トレルチ (現代哲学者叢書)	昭21	二、〇〇〇
1	馬烽・西戎 白樺天皇行状記	昭26	二、五〇〇
32	ヴェンソウ・フスキ 社会主義と階級変動	昭47	一、三〇〇
33	アメリカ社会学の潮流 石川 晃弘譯	昭23	二、〇〇〇
34	トルン・ワルト 社会学の饗宴 福武直	昭27	二、〇〇〇
35	不安の歐洲を巡る (少痛)	昭16	一、〇〇〇
36	世界最終論	昭21	一、二〇〇
37	終戦三論	昭21	一、二〇〇
38	社会思想史 (少線引)	昭27	一、五〇〇
39	戦い獨逸	昭18	二、〇〇〇
40	新體制講話	昭15	一、五〇〇
41	新左翼運動全史	昭53	一、五〇〇
42	来るべき日本	昭16	一、五〇〇
43	インド史	昭17	一、五〇〇
44	ルイス アラブの歴史 林、武、山上	昭42	一、五〇〇
45	コフバク パルチザン 岩田、小関、川上	昭26	二、〇〇〇
46	サイクス ペルシャのワスミス 新田、潤	昭16	二、〇〇〇
47	コンタイン・アンタキ 泰国の人と土 澤田	昭30	二、五〇〇
48	ラッセル 権力とその歴史と心理 東宮	昭35	二、五〇〇
49	ウェーバー 権力と支配 浜島 朗譯	昭27	二、五〇〇
50	ブラウン アメリカ資本主義発達史 渡辺	昭28	二、五〇〇
51	英国産業革命史 (少痛) 小松芳喬	昭27	二、〇〇〇
52	中国新民主主義革命史 胡 華	昭50	二、五〇〇
53	日本帝国主義の朝鮮支配上下 朴慶植	昭7	一、五〇〇
54	日本道とファシズム批判	昭43	一、五〇〇
55	英雄主義	昭17	一、五〇〇
56	大東亜戦争の発火点 日米交渉の経緯	昭27	一、五〇〇
57	附口バート報告書 来栖三郎	昭27	一、五〇〇
58	国民に訴ふ 日・共創立三十周年	昭2	一、〇〇〇
59	帝国の非常時断じて解消せず 若槻禮次郎	昭9	一、〇〇〇
60	共産党批判 鍋山貞親	昭25	一、五〇〇
61	歴代内閣百九十二大臣 千田理示造	昭11	一、〇〇〇
62	飛躍の大日本国家体制大綱 橋本欣五郎	昭21	一、〇〇〇
63	民主議会政治の話 新日本建設同盟編	昭12	一、〇〇〇
64	議政壇上に叫ぶ 軍部か・官僚か・政党か	昭12	一、〇〇〇
65	戦時下抵抗の研究 キリスト者・自由主義者の場合 同大人文研編	昭43	三、五〇〇
66	市民革命の研究 林健太郎他	昭23	一、五〇〇
67	日本政治腐敗史 井上 清	昭23	二、〇〇〇
68	人民民主主義の世界的発展 平野義太郎	昭24	二、〇〇〇
69	トリーズ 人民の子 長崎廣次譯	昭21	二、〇〇〇
70	ホブソン 民主政治と文化の変遷 宮西	昭21	一、八〇〇
71	基地日本 うしなわれていく祖国のすがた	昭28	一、八〇〇
72	必勝国民読本 猪俣 他	昭19	一、〇〇〇
73	日本のマニファクトリア問題 少書三振江英一	昭24	一、五〇〇
74	ジュニコフ 日本労働農民運動史 川村	昭21	一、五〇〇
75	日本精神の展開と農村問題 西川 貞一	昭19	一、五〇〇
76	決戦下の食糧増産 加藤完治	昭16	二、五〇〇
77	法律善と法律悪 宮城長五郎	昭32	一、五〇〇
78	検事 (人間の記録双書) 森森薫信	昭23	一、〇〇〇
79	新しい農業への課題 福島要一	昭45	二、五〇〇
80	英後青年発展史 下澤瑞世	昭27	一、五〇〇
81	マカレンコ 幸福になるために 共産主	昭25	一、五〇〇
82	大学を守ろう 大学の危機とその擁護 末川	昭22	一、〇〇〇
83	学生と先哲 河合栄治郎編	昭26	一、三〇〇
84	ヴィグドローフ 四年C組若い女教師の手記	昭48	七、〇〇〇
85	パナール 歴史における科学 鎮目恭夫	昭15	一、五〇〇
86	科学失兵 竹内時男	昭17	二、〇〇〇
87	航空と人間 (創元科学叢書) 航空心理部編	昭23	一、五〇〇
88	もちはなせまいるいか 科学のあたらしい	昭24	一、五〇〇
89	原子論の誕生・追放・復活 原子と化学	昭17	二、〇〇〇
90	シエン・チン・ガア アニリン 獨逸染料工	昭17	二、〇〇〇
91	クライフ 微生物を追ふ人々 秋元壽忠夫	昭16	二、〇〇〇
92	ナチスの科学政策 (ナチス双書) 深尾重光	昭27	一、五〇〇
93	ウェーラー・エフ 医者の告白 袋一平譯	昭26	一、五〇〇
94	ムーデー 取扱にくい子供の医学 懸田	昭11	一、五〇〇
95	子供の世界 児童文化の諸問題 小川清彦	昭17	一、五〇〇
96	文化生活の科学 山根 薫	昭18	二、五〇〇
97	理の探究 (科学文化双書) 荒木精之	昭21	二、〇〇〇
98	誠忠神風連	昭21	二、〇〇〇
99	先祖の話 (背少痛) 柳田國男	昭21	二、〇〇〇

〒604 京都市中京区河原町通六角下ル

赤尾照文堂

電話(〇七五)二二二一五八八
振替 京都 三三三二六

33	基督教の文学観	石田憲次	昭7	一五〇〇
32	過去と現在	石田憲次	昭12	六八〇〇
31	英文学の方法	石田憲次	昭45	六〇〇〇
30	英文学のよるこび	石田憲次	昭24	二五〇〇
29	文学ノート	吉田健一	昭42	二五〇〇
28	文学の屈従	鼓 常良	昭47	二五〇〇
27	文学理論の研究	桑原武夫	昭43	二五〇〇
26	文学理論の歴史	岩波書店	昭40	二五〇〇
25	現代小説の原理	リチャーズ	昭49	二五〇〇
24	文学批評の原理	奥 俊貞	昭13	二五〇〇
23	近代文学と恋愛	モーデル	昭39	二五〇〇
22	蝸牛の殻 英文学雑考	宮西光雄	昭41	二五〇〇
21	英文学と宗教・倫理	須藤信雄	昭41	二五〇〇
20	英文文学の背景	平田亮木	昭13	二五〇〇
19	英文文学の印象記	四條書房	昭8	二五〇〇
18	英文文学の印象記	アルス	昭41	二五〇〇
17	自然主義文学	河内 清	昭43	二五〇〇
16	歐洲近代文芸思潮概論	本間久雄	昭25	二五〇〇
15	歐洲近代文学概説	早大出版	昭5	二五〇〇
14	現代英国文芸印象記	萬里閣	昭2	二五〇〇
13	現代英国文芸印象記	宮島新三郎	昭4	二五〇〇
12	現代英国文芸印象記	金養文庫	昭14	二五〇〇
11	現代英国文芸印象記	教養文庫	昭47	二五〇〇
10	不凋花 英文学研究と省察	森安幸夫	昭33	二五〇〇
9	英文文学の諸相	萩書房	昭41	二五〇〇
8	英文文学の諸相	新潮流社	昭13	二五〇〇
7	現代英文学批評史	矢野峰人	昭6	二五〇〇
6	現代英文学批評史	西脇順三郎	昭30	二五〇〇
5	現代英文学批評史	矢本貞幹	昭41	二五〇〇
4	現代英文学批評史	矢本貞幹	昭23	二五〇〇
3	エリザベス朝の文学	秋田屋	昭52	二五〇〇
2	ルネッサンスの文学と思想	本多顯彰	昭28	二五〇〇
1	世界文学	モウルトン	昭28	二五〇〇

33	イギリス文学試験集	平井正徳	昭40	二五〇〇
34	イギリス文学 案内と文獻	御 興員三	昭43	二五〇〇
35	イギリス文学 案内と文獻	大和資雄	昭26	二五〇〇
36	イギリス文学 案内と文獻	朱牟田夏雄	昭46	二五〇〇
37	イギリス文学 案内と文獻	宮崎誠三	昭55	二五〇〇
38	イギリス文学 案内と文獻	至誠堂	昭27	二五〇〇
39	イギリス文学 案内と文獻	戸谷敏之	昭32	二五〇〇
40	イギリス文学 案内と文獻	増野・飯沼	昭32	二五〇〇
41	イギリス文学 案内と文獻	相原幸一	昭45	二五〇〇
42	イギリス文学 案内と文獻	飯沼 馨	昭30	二五〇〇
43	イギリス文学 案内と文獻	寺内泰彦	昭44	二五〇〇
44	イギリス文学 案内と文獻	高直矢	昭22	二五〇〇
45	イギリス文学 案内と文獻	清野暢一郎	昭6	二五〇〇
46	イギリス文学 案内と文獻	福村出版	昭22	二五〇〇
47	イギリス文学 案内と文獻	中西信太郎	昭23	二五〇〇
48	イギリス文学 案内と文獻	富原芳彰	昭40	二五〇〇
49	イギリス文学 案内と文獻	斎藤 勇	昭21	二五〇〇
50	イギリス文学 案内と文獻	研究社	昭44	二五〇〇
51	イギリス文学 案内と文獻	新井 三	昭28	二五〇〇
52	イギリス文学 案内と文獻	其協会編	昭10	二五〇〇
53	イギリス文学 案内と文獻	柏倉俊三	昭18	二五〇〇
54	イギリス文学 案内と文獻	竹内公基	昭26	二五〇〇
55	イギリス文学 案内と文獻	大塚高信	昭18	二五〇〇
56	イギリス文学 案内と文獻	シエイクスピアと独逸精神上下	昭53	二五〇〇
57	イギリス文学 案内と文獻	野田・玉木	昭14	二五〇〇
58	イギリス文学 案内と文獻	三省堂	昭47	二五〇〇
59	イギリス文学 案内と文獻	岩波	昭22	二五〇〇
60	イギリス文学 案内と文獻	木下順二	昭23	二五〇〇
61	イギリス文学 案内と文獻	竹友藻風	昭11	二五〇〇
62	イギリス文学 案内と文獻	大観堂	昭10	二五〇〇
63	イギリス文学 案内と文獻	尾島庄太郎	昭7	二五〇〇
64	イギリス文学 案内と文獻	丁未出版	昭30	二五〇〇
65	イギリス文学 案内と文獻	研究社	昭30	二五〇〇
66	イギリス文学 案内と文獻	佐々木達	昭10	二五〇〇
67	イギリス文学 案内と文獻	繁野政瑞	昭31	二五〇〇
68	イギリス文学 案内と文獻	深瀬基寛	昭10	二五〇〇
69	イギリス文学 案内と文獻	研究社	昭30	二五〇〇
70	イギリス文学 案内と文獻	研究社	昭30	二五〇〇
71	イギリス文学 案内と文獻	研究社	昭30	二五〇〇

72	イギリス浪漫派詩人	加納秀夫	昭26	二五〇〇
73	イギリス浪漫派詩人	矢野禾積	昭29	二五〇〇
74	イギリス浪漫派詩人	研究社	昭46	二五〇〇
75	イギリス浪漫派詩人	あぼろん社	昭45	二五〇〇
76	イギリス浪漫派詩人	湯川弘文社	昭17	二五〇〇
77	イギリス浪漫派詩人	研究社	昭46	二五〇〇
78	イギリス浪漫派詩人	警醒社	昭26	二五〇〇
79	イギリス浪漫派詩人	あぼろん	昭36	二五〇〇
80	イギリス浪漫派詩人	同大出版	昭55	二五〇〇
81	イギリス浪漫派詩人	南雲堂	昭33	二五〇〇
82	イギリス浪漫派詩人	研究社	昭7	二五〇〇
83	イギリス浪漫派詩人	岩橋武夫	昭13	二五〇〇
84	イギリス浪漫派詩人	みすず	昭43	二五〇〇
85	イギリス浪漫派詩人	厚生閣	昭6	二五〇〇
86	イギリス浪漫派詩人	大浦幸男	昭37	二五〇〇
87	イギリス浪漫派詩人	北星堂	昭49	二五〇〇
88	イギリス浪漫派詩人	長沼重隆	昭46	二五〇〇
89	イギリス浪漫派詩人	富田碎花	昭48	二五〇〇
90	イギリス浪漫派詩人	亀井俊介	昭15	二五〇〇
91	イギリス浪漫派詩人	平田亮木	昭2	二五〇〇
92	イギリス浪漫派詩人	平田亮木	昭15	二五〇〇
93	イギリス浪漫派詩人	平田亮木	昭15	二五〇〇
94	イギリス浪漫派詩人	平田亮木	昭15	二五〇〇
95	イギリス浪漫派詩人	平田亮木	昭15	二五〇〇
96	イギリス浪漫派詩人	平田亮木	昭15	二五〇〇
97	イギリス浪漫派詩人	平田亮木	昭15	二五〇〇
98	イギリス浪漫派詩人	平田亮木	昭15	二五〇〇
99	イギリス浪漫派詩人	平田亮木	昭15	二五〇〇
100	イギリス浪漫派詩人	平田亮木	昭15	二五〇〇
101	イギリス浪漫派詩人	平田亮木	昭15	二五〇〇
102	イギリス浪漫派詩人	平田亮木	昭15	二五〇〇
103	イギリス浪漫派詩人	平田亮木	昭15	二五〇〇
104	イギリス浪漫派詩人	平田亮木	昭15	二五〇〇
105	イギリス浪漫派詩人	平田亮木	昭15	二五〇〇
106	イギリス浪漫派詩人	平田亮木	昭15	二五〇〇
107	イギリス浪漫派詩人	平田亮木	昭15	二五〇〇
108	イギリス浪漫派詩人	平田亮木	昭15	二五〇〇
109	イギリス浪漫派詩人	平田亮木	昭15	二五〇〇
110	イギリス浪漫派詩人	平田亮木	昭15	二五〇〇

電話(〇七五) 三五—一九六六三
振替 京都 四—三四七一

〒600 京都市下京区寺町通仏光寺下ル

1	易學講義錄 七冊揃	神山五黃著	同易学会	昭8	一五、〇〇〇	
2	易古自在	大島中堂著	生書院	大15	六、〇〇〇	
3	易學小箋	新井白蛾著	松榮堂	明15	二、〇〇〇	
4	易學小篆象意考	南紀便道著	文政堂	文化5	二、五〇〇	
5	易學独判斷	根本澄編	いろは書房	明29	二、五〇〇	
6	易學独稽古	澤田寛齊著	欽英堂	明36	二、五〇〇	
7	陰陽五要奇書十冊揃晋郭璞著	唐本	乾隆庚戌年	三、〇〇〇		
8	高華氣字陰陽同会法高島正龍著	三立出版	昭54	五、〇〇〇		
9	個性字九氣密意	田中胎東編	香草社	昭50	一、五〇〇	
10	個性字入門	三命方象著	洛陽書房	昭47	二、五〇〇	
11	蒙色望診	目黒玄竜子著	実占研究	昭40	八、〇〇〇	
12	觀相精通	今村雄峯著	同刊行	大14	五、〇〇〇	
13	実相判術講義	古村紫雲述	同刊行	明10	一、〇〇〇	
14	性相講話	石竜子著	玄黃社	昭2	一、五〇〇	
15	占断実験録二冊揃	神山五黃著	同易学会	昭7	八、〇〇〇	
16	增補占法要略二冊揃	高松見陵著	河内屋	昭7	一、〇〇〇	
17	墨色判断秘訣	佐々木高明著	神易館	大7	一、五〇〇	
18	秘録八門道甲奇數術	中哲嚴著	同購写版	大9	一、〇〇〇	
19	卜筮首節秘秘写本	二冊揃	五為堂無風著	大9	六、〇〇〇	
20	圓筭策法指南	谷川順述	同刊	大14	一、五〇〇	
21	増寛秘伝集 写本	幸徳井賀茂河臣陰陽堂	明治後	一、五〇〇		
22	九星判断図解	川原規二著	誠進堂	明31	四、〇〇〇	
23	八宅明鏡図解	松浦孝鶴著	靖康堂	明13	二、〇〇〇	
24	八宅明鏡辨解	菊地龜仙著	蕪志堂	明23	二、五〇〇	
25	家相千年眼	三冊揃	平沢白翁著	宝玉堂	明再	四、五〇〇
26	方鑑大成 三冊揃	尾島碩閑著	磯川堂	明23	七、〇〇〇	
27	方鑑必攷	尾島碩閑編	磯川堂	明22	二、五〇〇	
28	手相の解説	三輪祐嗣著	学燈社	昭24	一、五〇〇	
29	手相の科学	永島真雄著	清教社	昭25	一、五〇〇	
30	手相の科学的研究	平竹辰著	春光社	昭23	二、五〇〇	
31	手相学	小西久遠著	白眼学舎	昭23	二、五〇〇	
32	図解手相学	小西久遠著	一誠社	昭7	一、五〇〇	
33	総合手相術	東洋五術会編	大文館	昭46	一、五〇〇	

電話(〇七五)二三二一七七二一

千602 京都市上京区河原町今出川上ル

1	政治学の根本問題	大石兵太郎	有斐閣	昭和14	三,000
2	政治学説史 揃二冊	古賀弘松	人文閣	昭和17	三,000
3	ベツテ 政治算術	大内兵衛 譯 栗田書館	聚英堂	昭和16	三,000
4	政治思想史 揃二冊	野村胡堂著 今中次麿著	南郊社	昭和16	三,500
5	日本政治史大綱	高橋清吾著	有斐閣	昭和12	二,800
6	政治思想史(上巻)	赤羽豊治郎	凡進社	昭和10	二,000
7	国家干渉主義	升味隆之輔	岩波	昭和46	三,500
8	現代政治と政治学	永井陽之助	岩波	昭和40	四,000
9	政治意識の研究	岡武義編	岩波	昭和43	五,000
10	現代民主の政治過程	京極純一	岩波	昭和44	六,000
11	現代民主政と政治学	和田斐太	大阪社	昭和15	一,500
12	優れたる政治と経済	武中靖公編 新保社	昭15	四,000	
13	現代政治分析 揃二冊	堀真琴著	三笠	昭和16	一,000
14	轉換期の政治思想	細川亀村著	南郊社	昭和18	一,500
15	日本政治史	小野塚教授 在職中に記念	岩波	昭和2	五,000
16	政治学研究(第一巻)	來問 恭著	天人社	昭和6	三,000
17	日本政治暗闘史	來原 恭著	平人社	昭和3	三,500
18	東洋政治経済思想淵源	來原 恭著	有斐閣	昭和22	三,500
19	米國政治史序説	高木八尺著	理想社	昭和29	三,500
20	アメリカ大統領論	斎藤 敏著	理想社	昭和7	五,000
21	民主政治と獨裁政治	シゲトモ芳二(譯) 西島芳二(譯)	岩波	昭和37	一,500
22	大衆國家と独裁	宮本桂仙 代々木書院	昭43	三,500	
23	共產主義の崩壊	宮本桂仙 代々木書院	昭43	三,500	
24	英國會之起源並進展	占部百太郎	岩波	昭和13	六,000
25	近代中國外交史研究	坂野正高著	岩波	昭和50	六,000
26	支那社会経済史研究	玉井是博著	岩波	昭和17	一,000
27	支那の人文思想	中山久四郎	春秋社	昭和6	四,000
28	支那貨幣研究	吉田虎雄	東亜経済研究会	昭和8	六,000
29	支那経済通説	東亜経済研究会	昭13	六,000	
30	印度支那の原始文明	彌津正志	河出書房	昭和13	五,500
31	太平洋史	朝日新聞社	昭16	三,500	
32	イランの歴史と文化	蒲生禮一	博文館	昭和16	二,500
33	ミクロネシア民族誌	松岡静雄著	岩波	昭和18	一,000
34	濠洲の自然と社会	太平洋協会編	中公	昭和18	五,000

電話(〇七五) 七一一一五四二九
振替 京都 七―三三〇八九

〒606 京都市左京区一乗寺南大丸町95

(映画)パンフレット特集

1	「君の名は」 スーヴェニール 第2部	三〇〇〇
2	「愛情」 長門裕之、浅江ルリ子	二〇〇〇
3	「愛のお荷物」 三橋達也	一、五〇〇
4	「青銅の基督」 岡田英次	一、五〇〇
5	「七命記」 佐田啓一	一、五〇〇
6	「涙」 佐田啓二「鶴八鶴次郎」 高田浩吉	一、五〇〇
7	「青空の仲間」 三橋達也	一、〇〇〇
8	「乳房よ永遠なれ」 月丘夢二	一、〇〇〇
9	「ターザンと消えた探検隊」 ゴードン・スコット	二、五〇〇
10	「ピラミッド」 ジャック・ホーキンス	二、〇〇〇
11	「アダムとイヴ」	一、〇〇〇
12	「皇帝円舞曲」 ビング・クロスビー	二、〇〇〇
13	「エディ・フォイ物語」 ボブ・ホープ	一、五〇〇
14	「悪人たち」 ジェンヌ・モロー	一、〇〇〇
15	「折れた槍」 スペンサー・トレイシー	三、〇〇〇
16	「錨を上げて」 フランク・シナトラ	一、五〇〇
17	「アレキサンダー大王」 リチャード・バートン	一、五〇〇
18	「聖衣」 リチャード・バートン	二、五〇〇
19	「空中ぶらんこ」 B・ランカスター、G・ロブブリジダ	二、〇〇〇
20	「パンと恋と夢」 G・ロブブリジダ	二、〇〇〇
21	「プロディガール」 ラナ・ターナー 写真4枚付	二、五〇〇
22	「この神聖なお転婆娘」 B・バルドー	一、五〇〇
23	「殿方ご免遊ばせ」 B・バルドー	二、五〇〇
24	「愛情の瞬間」 ジャン・ギャバン	二、〇〇〇
25	「十七歳よさうなら」 K・スパーク	一、〇〇〇
26	「汚れたな悪戯」	一、五〇〇
27	「わかれ道」	一、〇〇〇
28	「櫛の木陰の欲望」 S・ローレン プレスシート	一、五〇〇
29	「東映の友」 創刊号	五、〇〇〇
30	「キネマクラブ・ウィークリー」 パンフ昭4年B6 ⁹ 月号	一〇、〇〇〇

※パンフレットは全てB5判(小判パンフ)です。

他にも大判パンフ常備三〇〇〇枚在庫有り!!

〒604 京都市中京区河原町通三条上ル

(朝日会館前)

キク才書店

電話(〇七五)二二一七六三四
振替 京都 一七六四〇

(随筆特集)

1	蝸牛庵夜譚	幸田露伴	初版	春陽堂	明40	六〇〇
2	竹頭	山路愛山	刷・函	岩波	昭14	二〇〇
3	書斎独話	山路愛山	再版	敬文館	明44	二〇〇
4	五色の酒	関如米	初版	春陽堂	大3	五八〇
5	一葉草紙	下山京子	再版	玄文社	大3	二八〇
6	蘇峰文選	徳富蘇峰	函	民友社	大5	五五〇
7	成實堂閑記	〃	初版	書物展覧	昭8	二〇〇
8	みずのたはこと	吉井勇	初・函	岩波	昭8	七八〇
9	水莊記	吉井勇	初版	東雲堂	大10	七五〇
10	毒徒然	〃	銀行問題研究会	昭2	二〇〇	
11	苦悶の符	〃	初版	一元社	昭4	二八〇
12	俗つづれ	〃	函	人文書院	昭9	二八〇
13	俗毒	〃	〃	〃	昭9	二八〇
14	俗人禪	〃	初版	大雄閣	昭9	二〇〇
15	鎮撫使さんとお加代	〃	初・函	立命館	昭10	四〇〇
16	自隠和尚	〃	函	人文書院	昭10	三三〇
17	孤斎隨筆	〃	〃	〃	昭10	三〇〇
18	随筆 鬼の念佛	〃	初・函	立命館	昭11	三〇〇
19	それからそれへ	〃	初・函	人文書院	昭11	三〇〇
20	俗人語録	〃	初版	〃	昭12	三〇〇
21	毒つづれ	〃	初版	〃	昭13	二五〇
22	〃	〃	〃	〃	昭15	二五〇
23	有縁集	〃	初・函	立命館	昭16	三〇〇
24	禪を説く	〃	初・函	趣味発行所	昭16	二八〇
25	候蟲時鳥	〃	初版	人文書院	昭3	四〇〇
26	野狐禪	〃	初・函	人文書院	昭4	三〇〇
27	雪達磨	〃	初版	〃	昭10	二五〇
28	浅人零語	〃	〃	〃	昭10	二八〇
29	得能文	〃	第一書房	昭6	二八〇	
30	梅白し	〃	〃	昭6	二八〇	
31	刺客漫談	〃	〃	昭6	二八〇	
32	やきりんご	〃	〃	昭6	二八〇	
33	萬華鏡	〃	〃	昭7	三〇〇	

33	螢光板	吉村冬彦	初・函	岩波	昭10	八五〇
34	日中出現	松岡譲	函	第一書房	昭7	四八〇
35	如是閑隨筆集	長谷川如是閑	学芸社	昭8	二〇〇	
36	日本さまざま	〃	初・函	大法輪閣	昭37	二五〇
37	梵雲庵雜話	〃	初・函	大雄閣	昭8	九五〇
38	正統に生くる	宮島資夫	初・函	大雄閣	昭8	六五〇
39	静夜集	安倍能成	初・函	岩波	昭9	三三〇
40	草野集	〃	初・函	〃	昭11	三三〇
41	朝暮抄	〃	初・函	〃	昭13	三三〇
42	山中雜記	〃	初・函	〃	昭13	二八〇
43	ドンク	辰野隆	初・函	中央公論社	昭9	五〇〇
44	南の窓	〃	初・函	創元社	昭12	三三〇
45	ふらんす人	〃	初・カバ	青木書店	昭16	三八〇
46	親馬鹿の記	水上瀧太郎	初・函	改造	昭9	七五〇
47	瘦松園隨筆	黒田亮	初・函	三省堂	昭9	二八〇
48	隨想集	巴里素描 松尾邦之助	初・函	〃	昭9	二八〇
49	断絃	川上漸	初・函	人文書院	昭10	二五〇
50	かにかくに	楚人冠	初・函	四糸書房	昭10	二五〇
51	と見かう見	〃	初・函	日評	昭11	二五〇
52	良寛隨筆	津田青楓	初・函	翰墨同好会	昭10	八〇〇
53	瀟灑房草筆	〃	初・函	中公	昭16	四五〇
54	旅心常住	浦本浙潮	函	人文書院	昭10	三〇〇
55	漫筆七部集	〃	初・函	〃	昭11	三〇〇
56	魯庵隨筆	紫煙の人々	初・函	〃	昭13	二五〇
57	南遊記	下村海舟・飯島曼史	初・函	〃	昭10	六八〇
58	筆のまに	佐々木信綱・雪子	初・函	〃	昭10	五五〇
59	平遠隨筆	川路柳江	限定函	岡倉書房	昭10	四五〇
60	山居	小島徳子	初・函	人文書院	昭10	三八〇
61	三味線情趣	平山蘆花	初版	岡倉書房	昭10	一六〇
62	有頂天	内田百閒	初・函	葎革・中公	昭11	一三〇
63	隨筆・新雨	〃	初・函	小山書店	昭12	二二〇
64	馬は丸顔	〃	初・函	朝日新聞社	昭40	四四〇
65	手と足	井上吉次郎	初・函	人文書院	昭15	四三〇
66	観るもの	〃	初・函	文友堂	昭15	三三〇
67	飯倉だより	島崎藤村	初・函	アルス	昭11	四〇〇
68	芸林間歩	木下李太郎	初・函	岩波	昭11	三〇〇
69	擁燭漫筆	市島春城	初・函	〃	昭11	八〇〇

72	白馬に乗る	〃	初・函	〃	昭11	四〇〇
73	珊瑚樹	〃	初・函	〃	昭11	三〇〇
74	茶と花	〃	初・函	〃	昭11	三〇〇
75	糸魚川より	〃	初・函	〃	昭11	三〇〇
76	土に折る	〃	初・函	〃	昭11	三〇〇
77	芝罘耽溺	〃	初・函	〃	昭11	三〇〇
78	嘘の効用	〃	初・函	〃	昭11	三〇〇
79	随筆・きぬた	〃	初・函	〃	昭11	三〇〇
80	もめん隨筆	〃	初・函	〃	昭11	三〇〇
81	随筆貞女	〃	初・函	〃	昭11	三〇〇
82	詩集・楊柳歌	〃	初・函	〃	昭11	三〇〇
83	針線餘事	〃	初・函	〃	昭11	三〇〇
84	針を洗ふ	〃	初・函	〃	昭11	三〇〇
85	随筆・美しい季節	〃	初・函	〃	昭11	三〇〇
86	作家の手記	〃	初・函	〃	昭11	三〇〇
87	能楽隨想	〃	初・函	〃	昭11	三〇〇
88	昆虫・言葉・国民性	〃	初・函	〃	昭11	三〇〇
89	青雲集	〃	初・函	〃	昭11	三〇〇
90	随筆松花堂	〃	初・函	〃	昭11	三〇〇
91	海珠鈔	〃	初・函	〃	昭11	三〇〇
92	私思ふ	〃	初・函	〃	昭11	三〇〇
93	演出者の手記	〃	初・函	〃	昭11	三〇〇
94	茶わん隨筆	〃	初・函	〃	昭11	三〇〇
95	文章	〃	初・函	〃	昭11	三〇〇
96	魚鱗集	〃	初・函	〃	昭11	三〇〇
97	薈	〃	初・函	〃	昭11	三〇〇
98	薈	〃	初・函	〃	昭11	三〇〇
99	薈	〃	初・函	〃	昭11	三〇〇
100	薈	〃	初・函	〃	昭11	三〇〇
101	薈	〃	初・函	〃	昭11	三〇〇
102	薈	〃	初・函	〃	昭11	三〇〇
103	薈	〃	初・函	〃	昭11	三〇〇
104	薈	〃	初・函	〃	昭11	三〇〇
105	薈	〃	初・函	〃	昭11	三〇〇
106	薈	〃	初・函	〃	昭11	三〇〇
107	薈	〃	初・函	〃	昭11	三〇〇
108	薈	〃	初・函	〃	昭11	三〇〇
109	薈	〃	初・函	〃	昭11	三〇〇
110	薈	〃	初・函	〃	昭11	三〇〇

福田屋書店

〒606 京都市左京区田中里ノ前町55

電話(〇七五)七八一三二一六

1	妖怪百談	井上四了	盛陽堂	背少損	昭7	二、〇〇〇
2	雅集	三冊揃	東儀文禮	東儀明会	昭9	一、〇〇〇
3	北海道駅名の起源	国鉄	雄鶏社	三省堂	昭23	一、〇〇〇
4	雨邨水史談	溝口三郎編	雄鶏社	三省堂	昭19	二、〇〇〇
5	和算の話	細井宗	萩市教育会	三省堂	昭13	六、〇〇〇
6	松陰先生遺墨写真帖	木戸銘之助編	和本	三省堂	昭15	二、〇〇〇
7	大正演説軌範下	木戸銘之助編	和本	三省堂	昭15	二、〇〇〇
8	大正崎人伝	鳥谷部陽太郎	三水社	三省堂	昭27	二、〇〇〇
9	幸徳秋水伝	糸屋寿雄	三一書房	三省堂	昭27	二、〇〇〇
10	富岡後記	和田英子	信濃教育会	三省堂	昭6	二、〇〇〇
11	日本国民に遺言す	茅原華山	講談社	三省堂	昭8	二、〇〇〇
12	内親外望	新渡戸稲造	実業日本社	三省堂	昭5	二、〇〇〇
13	鐘紡の解剖	野中雅士	風間道太郎	三省堂	昭34	一、〇〇〇
14	ある反逆	尾崎秀実の生涯	風間道太郎	三省堂	昭17	二、〇〇〇
15	山縣有朋陸軍省沿革史	松下芳男	分売	三省堂	昭11	各、〇〇〇
16	小笠原長生全集	③④⑤⑥⑦⑧巻	分売	三省堂	昭9	二、〇〇〇
17	聖武東郷平八郎伝	小笠原長生	改造社	三省堂	昭19	二、〇〇〇
18	振武台の教育	陸軍豫科士官学校	三省堂	三省堂	昭4	二、〇〇〇
19	校長学	カベレ	岡本春三	三省堂	昭12	二、〇〇〇
20	図画応用紙細工	木内菊次郎	実業日本社	三省堂	昭12	二、〇〇〇
21	体操教材指導の実際	森秀	目黒書店	三省堂	昭16	一、〇〇〇
22	日本近世英学史	重久篤太郎	春秋社	三省堂	昭15	二、〇〇〇
23	鳴雪俳句集	松浦為王編	春秋社	三省堂	昭10	二、〇〇〇
24	稿本修竹軒句帖	糸川个字	草上双書	三省堂	昭15	二、〇〇〇
25	梅狂俳句集	光成梅狂	草上双書	三省堂	昭17	二、〇〇〇
26	露石少録下	松瀬青々	倦鳥社	三省堂	昭15	二、〇〇〇
27	添削少録下	松瀬青々	倦鳥社	三省堂	昭15	二、〇〇〇
28	わすれなごさ	吉屋信子	中原淳一画	三省堂	昭22	五、〇〇〇
29	ボードレールの世界	初版	福永武彦	三省堂	昭35	二、〇〇〇
30	サド悲慘物語	初版	満沢竜彦訳	箱入	昭48	二、〇〇〇
31	異嗜的作家論	初版	天野哲夫編著	新潮社	昭47	二、〇〇〇
32	兵卒の蒙	初版	水上勉	新潮社	昭54	二、〇〇〇
33	金閣炎上	初版	水上勉	新潮社	昭54	二、〇〇〇

萩書房

〒602 京都市上京区烏丸通り上御霊前下ル
上御霊前町四二二電話(〇七五)四三二一三七二
振替 京都 八一四三六

33	吉祥圖案解題 上下二冊揃	野崎誠近	平凡社	昭15	二、〇〇〇
32	英文法上人行状録 全五冊揃	世界堂刊行協會		昭24	六、〇〇〇
31	大阪の芝居 初版函付	山口廣一	輝文館	昭17	二、五〇〇
30	物理學の哲學	大瀧武譯	カバエ	昭17	一、五〇〇
29	ジェームズ・ワット	原光雄譯	カバエ	昭16	一、五〇〇
28	創元科學叢書物質の神秘	石橋榮譯	カバエ	昭15	一、五〇〇
27	ドン・カルロス	シルレル作 佐藤通次譯	岩波	昭2	二、〇〇〇
26	アンリ・ブリアール	ル・生蓮 阿部敬二譯		昭22	一、五〇〇
25	ゴッホの往復書簡集	湯淺芳子譯		昭16	一、五〇〇
24	若きチエーホフ	中山省三郎 かほり書房		昭23	一、五〇〇
23	ドストエフスキ歴史	神西清 河出書房		昭24	一、五〇〇
22	ドストエフスキ研究	昇曙夢著 壮文社		昭23	一、五〇〇
21	ドストエフスキ	ボロステイン著・黒田辰男譯		昭14	二、五〇〇
20	ロシア文學点描	米川正夫 穂高書房		昭22	一、五〇〇
19	ロシア文學史	黒田辰男 創藝社		昭23	一、五〇〇
18	最新ロシア文學研究	ロガチエフ著・井田孝平譯		昭15	三、〇〇〇
17	文藝復興期神祕主義	山部重治譯 第一書房		昭12	三、〇〇〇
16	ニーチェの「ワラツツ」	立澤剛 岩波書店		昭16	二、〇〇〇
15	言語學	高木弘 三笠書房		昭11	二、〇〇〇
14	ゲーテの「ファウスト」	茅野蕭々 岩波書店		昭16	二、〇〇〇
13	カント純粹理性批判	天野貞祐 岩波書店		昭16	二、〇〇〇
12	現代文化の哲人としてのカン	大坂六村 慶州古蹟保存会		昭4	二、〇〇〇
11	趣味の慶州	大坂六村 慶州古蹟保存会		昭6	二、〇〇〇
10	北平遊覧案内	日本国際観光局		昭11	二、〇〇〇
9	京城・仁川・水原・開城	朝鮮総督府鐵道局		昭15	二、〇〇〇
8	朝鮮の今昔	歴代篇 松田甲 朝鮮総督府		昭2	二、五〇〇
7	パナマ運河	ビショップ父子著 早坂二郎譯		昭16	二、〇〇〇
6	大東亜戦争海戦史	東日・大毎新聞社編		昭17	二、〇〇〇
5	日本海大海戦史	軍令部編		昭10	六、〇〇〇
4	昭和九年九月颱風被害調査書	大阪営林局		昭14	三、〇〇〇
3	京都電燈株式会社五十年史			昭15	三、〇〇〇
2	大阪電燈株式會社五十年史			昭15	三、〇〇〇
1	昭和九年九月颱風被害調査書			昭15	三、〇〇〇

井上書店

〒606 京都市左京区今出川通百万遍東入
(京都大学前)電話(〇七五)七八一三三五一
振替 京都 七二二四九七

1	樺太殖民政策	谷口英三郎	大3	三八〇〇	
2	樺太風土記	西田源蔵	大1	四〇〇〇	
3	台湾上	武内貞義	大3	三〇〇〇	
4	大上海	大上海社	大4	三、五〇〇	
5	李王宮秘史	権藤四郎介	大15	五、五〇〇	
6	朝鮮金融組合協会史	長野県小諸小学校編	明43	三、五〇〇	
7	浅間山	長野県小諸小学校編	明43	四、八〇〇	
8	京都電燈株式会社五十年史	帝宝博物館	昭14	四、〇〇〇	
9	稿本 日本帝国美術略史	帝宝博物館	大5	三、五〇〇	
10	アサヒスポーツ 第二巻附録17	27合本	大13	四、五〇〇	
11	親鸞聖人高僧名書選第六巻	山本勇夫	昭9	四、〇〇〇	
12	親鸞聖人一代記	松本青樹	昭9	一、〇〇〇	
13	碧巖録講話	間宮英宗	昭13	三、〇〇〇	
14	達摩 禪叢書1	釋宗演述	昭16	二、六〇〇	
15	彌勒出生以前	近重真澄	昭12	二、五〇〇	
16	般若心経講話	新井石樺	昭12	二、五〇〇	
17	修養洗心録	新井石樺	昭13	二、五〇〇	
18	宗教的人格教育論	上中下3冊	大14	五、五〇〇	
19	宗教的人格教育論	上中下3冊	昭11	一、八〇〇	
20	観音経講話	渡辺海旭	昭12	一、二〇〇	
21	講本 大乘起信論	龍大出版部	昭8	四、〇〇〇	
22	眞言哲學	小野藤太	昭4	四、〇〇〇	
23	浄土文類聚鈔講義	三版 櫻田慈明	昭15	六、〇〇〇	
24	天台實相論の研究	石津昭鑒	昭24	三、八〇〇	
25	華嚴字概論	湯次了榮	昭16	二、〇〇〇	
26	俱舍教義	高木俊一	昭16	五、五〇〇	
27	日本浄土教の成立	宮井義雄	昭54	三、三〇〇	
28	日本の中世思想	宮井義雄	昭56	四、〇〇〇	
29	世阿彌土六部集評釋	上下二冊	昭39	九、〇〇〇	
30	日本の古文書	上・下	昭37	一、〇〇〇	
31	復刻 徳川幕府県治要略	安藤博相書房	昭41	三、〇〇〇	
32	聖書講義	矢内原忠雄	全8冊	昭53	一、〇〇〇

電話（〇七五）七〇一六六二七
振替 京都 九一六三八四

33	週間アニマルヤイフ 第一号一〇〇号全二百冊揃	18000
32	朝日ニュース週間世界動物百科 増刊号上 全百六冊揃	19000
31	写真図説民衆の宗教大本 出口栄一 学燈社 昭45	15000
30	哲学講話 カバー付 得能文 第一書房 昭22	15000
29	宗教教育に於けるお話の活用 エフ・エス・ワイル著 日隆世界社 昭9	10000
28	新著説教教養 ヒルテイ佐久間訳 文修堂 昭22	10000
27	種と実 ブルンナー田中訳 教文館 昭25	10000
26	信仰の盛満 エスエーキン大沢訳 日本聖教公 昭16	10000
25	基督日ごとの糧 青木澄十郎 宝文館 昭23	10000
24	福音讃美歌 雲泉社 昭11	10000
23	決断の信仰 普及版 高倉説教集(3) 長崎書店 昭7	10000
22	神の愛と神への愛 高倉説教集(1) 新教書店 昭3	15000
21	基督教概論 熊野義孝 長崎出版 昭25	10000
20	原書「コメンタリイ」バブルゲム著 アクミラン 一六元	40000
19	旧約聖書神学 今井壽道 日本聖公会出版 大13	35000
18	カルヴィン基督教綱要二巻 中山昌樹訳 新教出版 昭24	20000
17	コロサイ書註解 カルヴィン松谷訳 長崎書店 昭14	18000
16	ヨハネ書翰の研究 熊野義孝 新生堂 昭11	20000
15	出エジプト記講義 函付 C.H.原著 一粒社 昭9	25000
14	新約の時代 函付 松本卓夫 基督教思想双書 昭9	25000
13	詩篇の研究 湯浅半月訳 アルバ社書店 昭12	45000
12	聖書の歴史の地理 大屋左一 マコトヤ書店 昭2	45000
11	パウロの神学 第三版 山谷吾三 長崎書店 昭14	70000
10	新約聖書神学 二巻 三巻 日本基督教協会 大13	60000
9	新約聖書神学 二巻 三巻 日本基督教協会 大13	60000
8	新約聖書神学 二巻 三巻 日本基督教協会 大13	60000
7	新約聖書神学 二巻 三巻 日本基督教協会 大13	60000
6	新約聖書神学 二巻 三巻 日本基督教協会 大13	60000
5	新約聖書神学 二巻 三巻 日本基督教協会 大13	60000
4	新約聖書神学 二巻 三巻 日本基督教協会 大13	60000
3	新約聖書神学 二巻 三巻 日本基督教協会 大13	60000
2	新約聖書神学 二巻 三巻 日本基督教協会 大13	60000
1	新約聖書神学 二巻 三巻 日本基督教協会 大13	60000

電話(〇七五)四五—一〇五二三
振替 京都 三一—一九一四八

1	現代美術の問題	大西克礼	岩波	昭和2
2	芸術史の課題	植田寿蔵	弘文堂	昭和7
3	明治朝 伊太利亜美術家の研究	隈元謙次郎	岩波	昭和17
4	造形——教師用指導書 造形教育研究会編		四友堂	昭和23
5	日本民族と南方文化 金閣丈夫古稀記念		三友堂	昭和27
6	英語發達史 ウィークリイ	東京堂	三友堂	昭和30
7	中心部を校外教育 京都府小学校教育会編		三友堂	昭和34
8	デュレー研究 来日五十周年記念論文集		三友堂	昭和44
9	新しき教育論 石井勘十	玉川学園	三友堂	昭和46
10	戦後教員物語(1) 勝田守一他編	三一新書	三友堂	昭和48
12	レコードによる音楽鑑賞の実際 山田耕筈		三友堂	昭和50
13	知識・信仰・懷疑 K・レーヴィツト		三友堂	昭和53
14	カントー存在論および科学論 マルチン		三友堂	昭和57
15	西語 ケンゲル 高山岩男	弘文堂	三友堂	昭和61
16	西語 ハートゲル 高坂正顕	三友堂	三友堂	昭和61
17	西語 フォイエエルバッハ	伊達四郎	三友堂	昭和64
18	アリストテレス研究 藤井義夫	岩波	三友堂	昭和66
19	アリストテレス 高橋誠一郎 三省堂		三友堂	昭和68
20	基督教信仰の事実と意義 ビイタルス		三友堂	昭和68
21	説話イタリア文学史上巻 黒田正利		三友堂	昭和69
22	古今俳句傑作全集 上巻 湿ケ		三友堂	昭和71
23	神道論 石村吉甫	日本歴史全書	三友堂	昭和76
24	神祇文化図説 上巻 高成成章 岸山崎四郎編		三友堂	昭和76
25	平田篤胤 山田孝雄	宝文館	三友堂	昭和78
26	平田篤胤 山田孝雄	欽傍書房	三友堂	昭和78
27	国字の本義 山田孝雄	欽傍書房	三友堂	昭和78
28	古事記論稿 倉野恵子	立命館出版部	三友堂	昭和78
29	改正西国立志編 中村正直訳	博文堂	三友堂	昭和43
30	先賢群像 真鍋由郎	文淵堂	三友堂	昭和48
31	釈迦伝 長井真琴		三友堂	昭和48
32	惜櫟莊主人 小林勇	岩波	三友堂	昭和48
33	橈と櫓(漕艇百科)	宮田勝善	三友堂	昭和48

〒604 京都市中京区寺町通錦上ル

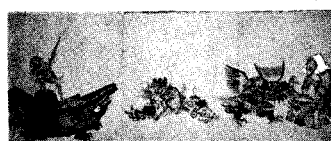
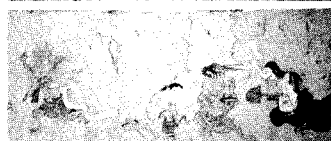
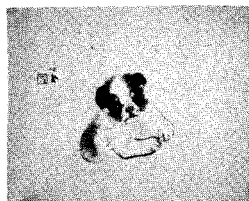
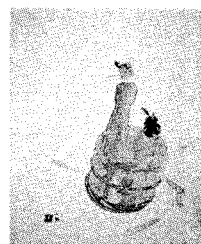
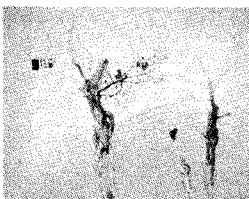
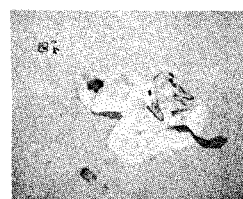
大 書 堂

電話(〇七五)二二二一〇六八五
振替 京都 七二二一六五

病草子絵巻 未表装 単彩

山城守土佐光長筆写 実連写之堅可制外見
安永四乙未二月 岩城宗三写複図八月十七日

28cm×1000cm ¥60,000

朝鮮通信士行例絵巻 未表装
始めしばらくは彩色してあるが後は単彩
28×1500cm ¥100,000朝鮮通信士行例絵巻 未表装
江戸時代に李氏朝鮮から徳川幕府へ親善使節として来日した一行が江戸へ向う模様を宛明に描いている。朝鮮通信士は江戸時代十二回にわたって来日し、日本からも二十回程使節団を派遣している。案内役の足軽や雑兵に囲まれた通信士が馬上で竜の形名旗を掲げ、正装した正使、副使の奥が続く、ラッパ・太鼓等楽団の一行、その後に馬上には女性の姿も見え、画面を見ていると当時は非常に友好的で、大歓迎をしていたのがわかる。平塚運一創作版画 名作版画集
自画・自彫・自摺 ケース表紙共 30図
内彩摺7図 昭和29年 ¥150,000竹内栖鳳木版画 椿
49×40 昭和12年 ¥30,000百器夜行絵巻 飛鳥井中勢之丞 探藤藏
彩色 26×420cm ¥85,000竹内栖鳳木版画 狗子
49×40 昭和12年 ¥30,000竹内栖鳳木版画 たまり水
49×40 昭和12年 ¥30,000竹内栖鳳木版画 枯木吟猿
49×40 昭和12年 ¥30,000竹内栖鳳木版画 家鴨
49×40 昭和12年 ¥30,000

〒604 京都市中京区新烏丸通竹屋町上ル

文藻堂

電話(〇七五)二三二一九一四
振替 京都 八一六 一五

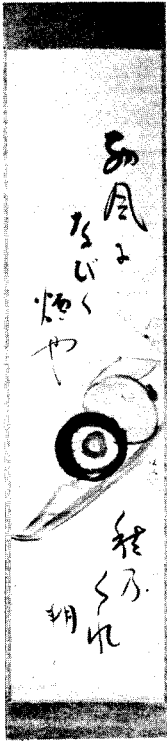
1 高浜虚子 短冊 山門も伽藍も花の雲の上 美 八〇,〇〇〇円

2 高野素十 短冊 土御門御陵の阿波の菜種梅雨 美 二〇,〇〇〇円

3 山口誓子 短冊 海風打てる童の帯のゆるみをり 美 二〇,〇〇〇円

4 中村草田男 短冊 降る雪や明治は遠くなりけり 美 一〇〇,〇〇〇円

14 青木月斗賢 芦田秋双画 舟行画賛幅 紙装(30×130厘) 杉箱入 八〇,〇〇〇円



西風になびく煙や秋のくれ(淡彩)

5 松瀬青々 短冊 秋うつや朝横日して瓜の花 美 一五,〇〇〇円

6 下村為山 短冊 天地の雲凝り凝って雪の富士(下絵) 美 一〇,〇〇〇円

7 高浜年尾 短冊 火城落つる燈下に湖の魚来る 美 一三,〇〇〇円

8 星野立子 短冊 山茶花にふた、びみたび訪ひつけ 美 一〇,〇〇〇円

9 水落露石 短冊 発祥の地といふ丘やふゆ木立 美 一〇,〇〇〇円

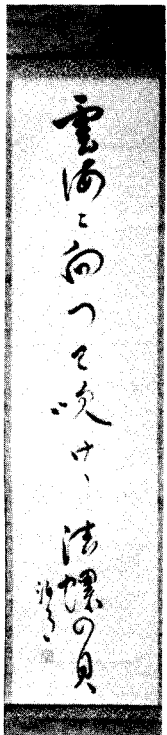
10 野田別天楼 短冊 四年なる魚の光りつ秋の雲 美 八,〇〇〇円

11 長谷川零餘子 短冊 行秋や井の鐘を今も撞く 美 五,〇〇〇円

12 皆吉炎雨 短冊 書にひとり井に母ひとり小鳥くる 美 五,〇〇〇円

13 名和三幹竹 短冊 黙祷の座に冷えせる今日の月 美 三,五〇〇円

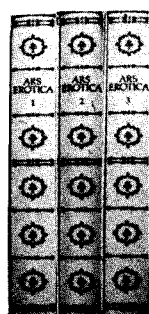
15 野村泊月 俳句幅 自題共箱入 紙装(29×124厘) 四〇,〇〇〇円



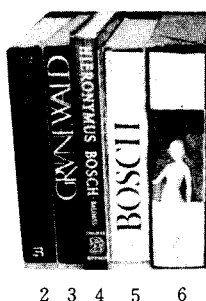
雲海に向つて吹けり法螺の貝(少星状シミ有)

電話 (〇七五) 四九一一三〇七

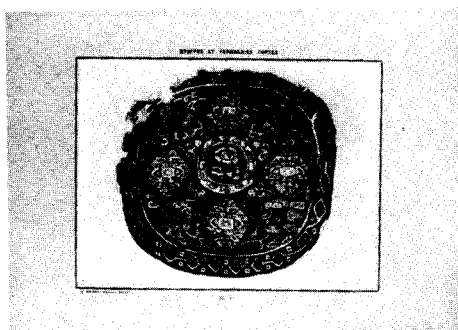
1	南方園嬰覽	朝日新聞社	昭和17	八〇〇
2	マルクス主義哲学の方法論	中ノ元 訳	昭和7	五〇〇
3	地方制度関係法令集 第一冊	内務省	昭和12	一〇〇〇
4	府市職制一覽	大坂市	昭和22	六〇〇
5	京都市財政要覽	京都市	昭和13	六〇〇
6	制度の東京都としての廣域性に関する資料	東京都	昭和34	五〇〇
7	水俣病	富田八郎	昭和44	七〇〇
8	出水校百年史	其百年祭記念委	昭和44	四〇〇
9	子どものための附屬百年史 京都教育大附屬小学校		昭和57	三〇〇
10	三岳小学校百年記念誌		昭和57	三〇〇
11	同和教育実践記録 一二一 京都府教委他		昭和28	六〇〇
12	伊勢年鑑	伊勢新聞社	昭和24	六〇〇
13	東洋の文化と社会	京大支那哲学史研究会編	昭和25	四〇〇
14	戦う平和論者	貝島兼三郎	昭和23	三〇〇
15	北方文化の研究報告 一	北帝大北方文化研	昭和14	五〇〇
16	自我批判の哲学	野村限平 函	昭和48	五〇〇
17	児童相談事例集 (一)	厚生省児童家庭局	昭和44	五〇〇
18	日本国家主義運動史	木下半治	昭和17	四〇〇
19	諸員宿舎名簿	京都府警察部	昭和3	一〇〇〇
20	新北支大福祉	竹中吉郎	昭和13	五〇〇
21	スクリンピクトリアル十卷九号		昭和16	四〇〇
22	流れ星	セノオ楽譜 春葉実生監版	昭和23	五〇〇
23	言われぬ嘆き	セノオ楽譜 所有者印あり	昭和24	四〇〇
24	馬売り	セノオ楽譜 北原清詩 訳	昭和25	四〇〇
25	まらばうけ	セノオ楽譜 北原清詩 訳	昭和26	四〇〇
26	下りてくれるな	セノオ楽譜 北原清詩 訳	昭和27	四〇〇
27	昆虫の社会生活	池谷静夫 訳	昭和28	五〇〇
28	動物の子供時代	池谷静夫 訳	昭和29	五〇〇
29	動物の子供時代	池谷静夫 訳	昭和30	五〇〇
30	新社会劇	堀川豊永	昭和31	四〇〇
31	新社会劇	堀川豊永	昭和32	四〇〇
32	老妓抄	岡本かの子 初版	昭和33	五〇〇
33	白鷺往來	長谷川伸 再版	昭和34	六〇〇
40	征空すろく	大阪毎日新聞付録	昭和5	六〇〇
41	文学会議 第二輯	創作特集	昭和22	二〇〇
42	人間作品集	雑誌人間別冊	昭和23	二〇〇
43	築地演劇論	久保栄	昭和23	三〇〇
44	書物札讀	創刊号	昭和14	二〇〇
45	折々の記	吉川英治 初版	昭和17	四〇〇
46	雑誌望樓	創刊十七号 十六冊	昭和21	二〇〇
47	切腹	和田克徳 初版	昭和18	五〇〇
48	渡辺華山	笹川臨風 函	昭和15	八〇〇
49	十五代将軍	高浜虚子 初版	昭和6	八〇〇
50	武蔵野日記	中川一政 初版	昭和9	五〇〇
51	全訳天路歷程	本沢 訳 初版	昭和16	五〇〇
52	ふしやくしんみやう	山本有三 初版	昭和17	五〇〇
53	歌集 形影抄	吉井勇 初版	昭和31	一五〇〇
54	随筆村里生活記	結城袁章果四刷 函	昭和14	三〇〇
55	銭形平次捕物百話集	前川佐美雄 初版	昭和22	三〇〇
56	歌集植物祭	前川佐美雄 初版	昭和22	三〇〇
57	カリーパー十六年七ヶ月の旅	筒井敬介	昭和18	三〇〇
58	攘夷論者の渡欧	洪沢秀雄 函	昭和9	四〇〇
59	スポーツ人国記	万籟小鷗	昭和22	二〇〇
60	文学会議 第三輯	新人創作特集	昭和22	二〇〇
61	光くらく	中本たか子 初版	昭和16	四〇〇
62	文章の技術	勝承夫	昭和18	三〇〇
63	女性と文学	窪川稲子 初版	昭和26	二五〇
64	音楽文学講話	野村良雄	昭和22	二〇〇
65	アメリカ近代作家論	田代三千穂	昭和18	三〇〇
66	俳談	高浜虚子	昭和22	二〇〇
67	書評 創刊号		昭和22	二〇〇
68	映画文化 復刊一号		昭和29	二〇〇
69	カミサマノオハナシ	フジタミツコ 初版	昭和17	三〇〇
70	絵画に見えたる妖怪	吉川観方解説	昭和27	三〇〇
71	随筆犬の 涎 林 鱗		昭和11	四〇〇
72	生物学の哲学的基礎	山根春次 訳	昭和16	五〇〇
79	社会哲学	土田杏村	昭和3	五〇〇
80	アメリカ資本主義の倫理	武藤光明朗	昭和22	三〇〇
81	日本教育の構造	小川太郎	昭和32	三〇〇
82	同志社大学校友会便覧	昭和17年 少欠 十六冊	昭和12	一五〇〇
83	同志社大学校友会便覧	昭和17年 少欠 十六冊	昭和12	一五〇〇
84	同志社問題の経過報告	日本国民科学研	昭和12	四〇〇
85	生活内省と修身教育	河野通頼	昭和15	六〇〇
86	アメリカ教育思潮の研究	京大アメリカ研	昭和18	五〇〇
87	新しい文化接衝の研究	京大アメリカ研	昭和15	五〇〇
88	日米学校	大塚三七雄	昭和23	五〇〇
89	鎌田正威先生追想録第一輯	台湾維新	昭和11	八〇〇
90	井上先生追慕録	井上善吉編	昭和8	六〇〇
91	近江地誌	全 宗宮信行	昭和33	三〇〇
92	小学地理 一、二 文部省		昭和37	四〇〇
93	小学日本歴史 一、二 文部省		昭和37	四〇〇
94	家庭教師	東京教育大厚生課	昭和37	四〇〇
95	デューイの教育	田尾一一	昭和31	九〇〇
96	新しい教育委員会制度	山本敏夫他論	昭和31	八〇〇
97	地方教育行政法	重松敬一編	昭和31	八〇〇
98	小学校健康教育	荷見秋次郎他編	昭和25	五〇〇
99	教育課程総論	戦後日本の教育 戦後日本の教育		



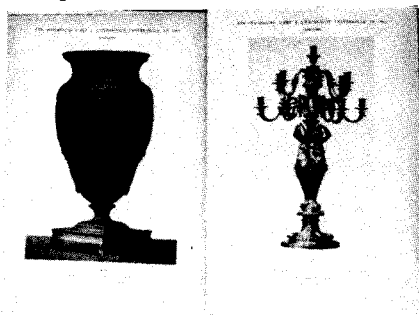
1



2 3 4 5 6



7



8



11

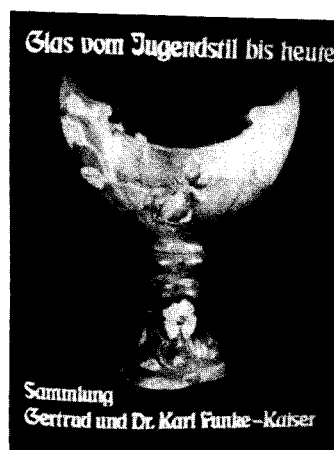


10



12

13



14

- | | |
|---|----------|
| 1. 「エロチックアート3巻 布装 各400ページ、図版多数、33×23 | ¥120,000 |
| 2. 「クラナッハ 画家 ファミリー」 30.6×24.5、1977、ウィーン、ミュンヘン | ¥30,000 |
| 3. 「グルーナバルト」 296ページ、31×27、140イラスト、スイス、1974 | ¥20,000 |
| 4. 「ボッシュ」 119図版、242ページ、33×30、ロンドン、1960 | ¥12,000 |
| 5. W. Fraenger 「ボッシュ」 516ページ、157プレート、30.5×24.5 1975 | ¥30,000 |
| 6. 「ボッシュ」 561ページ、269イラスト、30×27、ブリュッセル、1972 | ¥38,000 |
| 7. 「コプトの染織」 ボショワール刷り、48図、パリ、37×30 | ¥78,000 |
| 8. V. シャンピエール「1900年万国勸業博工業芸術展」 1902、2vols. 751ページ、33×24 | ¥60,000 |
| 9. C. Might. 「19世紀建築」 324ページ、540写真 | ¥15,000 |
| 10. 「19世紀ヨーロッパ陶器」 300ページ、写真多数、1983 | ¥15,000 |
| 11. H. ベペール「19世紀フランスの宝飾品」 複製版 1906、3巻 | ¥60,000 |
| 12. 「イギリス カメオ細工グラス」 422カラー写真、28×22、1980、ニューヨーク | ¥16,000 |
| 13. 「アーリーニューイングランドの松家具」 284イラスト、28×21、ニューヨーク | ¥6,000 |
| 14. 「ユーゲントスタイルから今日までのグラス」 カラー写真400図 | ¥35,000 |
| 7. 関連、ビクトリア & アルバート美術館編「エジプトの埋蔵品より選んだテキスタイルのカタログ」 | |
| 1920、ロンドン、96図、3巻 | ¥100,000 |

〒600 京都市下京区仏光寺通東洞院角

シルヴァン書房

電話(〇七五) 三四一八七九三
振替 京都 一七九三三八

〒604 京都市中京区丸太町通千本西入南側

八木書店古書部

電話(〇七五) 八二一三八九〇

33	大阪朝日新聞号外	樺太全島平定	明38	二、〇〇〇
32	大阪朝日新聞号外	黒海艦隊全部反乱	明38	二、〇〇〇
31	大阪朝日新聞号外	露國の大騒乱	明38	二、〇〇〇
30	大阪朝日新聞号外	柔術家江戸表野崎先生面会願書一通	文化14	二、五〇〇
29	節分はやし方之図	肉筆別所蔵印	享和3	三、八〇〇
28	時代祭 検遠衛使之図	肉筆別所蔵印	享和3	三、八〇〇
27	木版 水野年方圖	明治男之図	明30	三、〇〇〇
26	木版 周延華 靜御前舞之図		明25	三、〇〇〇
25	木版 国宝検遠衛使之図		明23	三、〇〇〇
24	木版 国宝光琳画福寿之図		明23	三、〇〇〇
23	木版 国宝四天王寺扇面屏絵		明23	三、〇〇〇
22	木版 国宝後三年没之図		明23	三、〇〇〇
21	木版 国宝源氏繪卷式部之図		明23	三、〇〇〇
20	支那風俗画譜 石田梅窓 初版		昭7	三、〇〇〇
19	日本に於ける甘藷の文獻目錄	浪速大学資料	昭30	三、八〇〇
18	ドイツ版 更抄模様集		元共	八、〇〇〇
17	佐川華谷筆 閑雪先生宛消息一通		元共	二、五〇〇
16	杵溪 桑蟻 雪山等肉筆句集 5冊		明治初	三、八〇〇
15	句集 横山居中遺稿 3冊不揃		大6	三、八〇〇
14	西蔵經 一紙 8cm×23cm		明治初	二、〇〇〇
13	英名競 番附一紙 18cm×22cm		明治初	二、〇〇〇
12	木版 花姿美人揃周延画一枚官吏と妻の図		明20	三、〇〇〇
11	浅野梅堂筆 梅之図一紙 元京都奉行		明11	三、〇〇〇
10	深草西岸寺 宝物目錄墨摺一紙西本願寺末		江戸末	二、五〇〇
9	京洛48願所順拝 寺院名并住所墨摺一紙		嘉永5	三、〇〇〇
8	東山長楽門山温泉図 墨摺一紙柳塘画		15cm×25cm	三、〇〇〇
7	元義筆 梅林師諱 詩一紙		明治中	三、〇〇〇
6	菱州筆 森本東閣宛 消息一紙		明治中	三、〇〇〇
5	織田合資筆 消息一紙名古屋南面家初破れ大元没		明中	二、〇〇〇
4	住吉社奉額 二堂庵宗匠選俳句募集廣告一紙		明中	二、〇〇〇
3	東京都花火美人納涼船 石版		明30	三、〇〇〇
2	銅版肖像画ブーケエ、チャッサー、セパンテス		各枚	二、〇〇〇
1	清少納言神詣之図一紙脇田水石筆名古屋人		大正	二、五〇〇

34	大阪朝日新聞号外	談判要求12箇条	明38	二、〇〇〇
35	大阪朝日新聞号外	樺太分割議	明38	二、〇〇〇
36	大阪朝日新聞号外	露国外相の宣言	明38	二、〇〇〇
37	大阪朝日新聞号外	樺太占領戦	明38	二、〇〇〇
38	大阪朝日新聞号外	横濱騒動	明38	二、〇〇〇
39	大阪朝日新聞号外	大赦令	大元9	二、〇〇〇
40	大阪朝日新聞号外	我軍疾風のチハル入城昭6	11月19日	二、〇〇〇
41	質屋組合定規	墨摺一紙	明28	三、〇〇〇
42	12月煤払ひ井松行商風景	肉筆別所蔵印	享和3	三、八〇〇
43	木版人參胡麻園店頭風景四条高倉北西角		明初	三、〇〇〇
44	木版 梶田半古画 平安物語女性之図		明治	三、〇〇〇
45	木版 林文塔画 宮城謹画 雲岬堂板		昭和	三、八〇〇
46	木版錦画物語狸獄17年小塚原浄土宗賢願寺		文久元	三、〇〇〇
47	木版奈智瀧折賀文覚 国周画一枚福助芝居絵		明治	三、〇〇〇
48	石版 東京名所新吉原之図		明治	三、八〇〇
49	木版竹内樓鳳画 花之図		明治	三、八〇〇
50	木版雪画 鶴之図		明治	三、八〇〇
51	木版伏見稲荷社都白景汚	18cm×25cm 玉園画	明初	三、〇〇〇
52	地券一枚 山城園乙訓郡寺戸村		明30	三、八〇〇
53	地券一枚 美濃国石津郡境村		明11	二、〇〇〇
54	地券一枚 山城園紀伊郡福稲村		明18	二、〇〇〇
55	地券一枚 京都上京七組西亀屋町		明13	二、〇〇〇
56	地券一枚 播磨国加東郡久保木村		明15	二、〇〇〇
57	地券一枚 河内国讃良郡南野村		明20	二、〇〇〇
58	地券一枚 伊勢国員辨郡		明10	二、〇〇〇
59	地券一枚 加賀国能美郡		明9	二、〇〇〇
60	戸塚静斎筆詩一紙シボルト門幕府医官		明9	二、〇〇〇
61	扇面 小沢戸庵筆 鶴面贊 傷物一紙		慶応元	三、〇〇〇
62	扇面 小沢戸庵筆 鶴面贊 傷物一紙		慶応元	三、〇〇〇
63	扇面 小沢戸庵筆 鶴面贊 傷物一紙		慶応元	三、〇〇〇
64	拓本 ジャワ 子供と女性図 一紙		傷有	三、八〇〇
65	湯浅當山筆 詩一紙		三、八〇〇	
66	大沼枕山筆 扇面詩一紙 傷有		三、八〇〇	
67	吉井三峯筆田園雅興詩一紙鹿兒島藩士維新志士小品		三、八〇〇	
68	岡崎元軌筆 詩一紙 油小路松原住 儒者		享和3	三、八〇〇
69	紙圏元 武者之図 肉筆一紙 別所旧蔵		享和3	三、八〇〇
70	六孫王21代氏隆朝臣訓問集一紙病者の別定		元和頃	三、〇〇〇
71	六孫王21代氏隆朝臣訓問集一紙兵法秘伝一紙		元和頃	三、〇〇〇

73	印度木皮徑一枚	於コロソボ 購入	三、八〇〇	
74	醫師木村得善筆 詩一紙小品		明治初	三、五〇〇
75	平安療医法橋佐井開庵筆 誠一字一紙		天保14	三、八〇〇
76	木版成田山芝山宗吾神靈開帳けん一枚国政		明18	三、八〇〇
77	富士郎版画 ほととぎすの図一枚 少汚		三、五〇〇	
78	一粒金丹能書約説并備記一紙弘前医官		文久元	三、五〇〇
79	宮田司山筆 富士山之図一紙		明13	三、五〇〇
80	伊勢山田中の町芝居廣告一紙		明13	三、五〇〇
81	有阪北馬筆万子肖像前田藩重臣句入り一紙25cm×27cm		三、五〇〇	
82	扇面 石塚確斎筆3字書古賀精里門薩摩藩儒		文化4	三、五〇〇
83	木版 地球儀図 勢州河村業 廣告一紙		明治初	三、〇〇〇
84	愛知果春日井郡岩崎村 医師丹羽泰安廣告一紙		明治初	三、〇〇〇
85	龜井驥威筆 詩一紙 古筆		明治初	三、〇〇〇
86	讓渡中田地之事一紙 御牧江ノ口村		明4	三、〇〇〇
87	木版 湖龍齋図 木に鳥之図 15cm×25cm		明治初	三、〇〇〇
88	近江製劑望月合名会社廣告一紙 木版絵入		明治初	三、〇〇〇
89	眞言宗御室仁和寺坊官祐憲筆 詩一紙		江戸末	三、〇〇〇
90	大阪住吉社御造宮寄附請取證一紙		文化2	三、〇〇〇
91	別品細心乃鏡相撲見立番附一紙大阪藤下編		明23	三、〇〇〇
92	十念大事墨摺一紙 下総井戸村延壽寺飯島		明元	三、〇〇〇
93	英人テリウスへ地蔵町築島の土地貸渡奉願書		明元	三、〇〇〇
94	黃梅院筆 高嶋屋主人宛消息一紙傷有		江戸中	三、八〇〇
95	中西陸奥守筆 養子奉願書一紙		天保9	三、八〇〇
96	信濃国西筑摩郡御嶽山図并略記木版一紙		三、八〇〇	
97	宮尾しげを筆 中年男性之図 一紙		三、八〇〇	
98	中国民画 貴神像 墨摺一紙		三、八〇〇	
99	酒券一枚一升29錢住吉郡平野郷町松村釀造		明20	三、五〇〇
100	有阪北馬筆 鬼貴肖像并句入 26cm×27cm		明20	三、五〇〇
101	具足陣羽織記等陣羽織関係八色絵彩入		寛文一	三、〇〇〇
102	川村曼舟画伯筆 書状一通		寛文一	三、〇〇〇
103	和州法隆寺 伽藍本尊靈宝目錄		江戸末	三、〇〇〇
104	求可斎石大筆 近江歌12首懷紙一紙		江戸末	三、〇〇〇
105	仏説何方來讚辭月江神師云々一紙周金記		寛政8	三、〇〇〇
106	九面上面王生狂言芝全交戯作豊田黄表紙一紙落丁		文政13	三、〇〇〇
107	證文一通京總行年行事上中下わ組人名有		文政13	三、〇〇〇
108	町送り請書之事一紙今出川至町年寄殿		明3	三、〇〇〇
109	江州野州郡永原北村長沢家系譜 寛保一		文政	三、〇〇〇
110	壬生村畑地絵図七八条村等地図八面見廻り方旧蔵		明36	三、〇〇〇
111	近江国山田神社由緒記并石版神社図一紙		明36	三、〇〇〇

〒600 京都市下京区寺町通り五条上ル

藤井文政堂

電話(〇七五)三五一一九三六三
振替 大阪 七三二一五

1	十八日観音供養傳秘決 弘安三年玄澄古写 一帖 四〇〇〇
2	印図集 寛文六年京都智積改院所求須空 写本 二冊 五〇〇〇
3	四度聞書 私 天文二十二年 写本 宝光院旧蔵 一帖 四〇〇〇
4	融通念仏宗關係本 和州法寿院正念寺所持江戸期 一〇〇〇〇
5	融通念仏宗關係本 和州法寿院正念寺所持江戸期 一〇〇〇〇
6	融通念仏宗關係本 和州法寿院正念寺所持江戸期 一〇〇〇〇
7	融通念仏宗關係本 和州法寿院正念寺所持江戸期 一〇〇〇〇
8	融通念仏宗關係本 和州法寿院正念寺所持江戸期 一〇〇〇〇
9	融通念仏宗關係本 和州法寿院正念寺所持江戸期 一〇〇〇〇
10	融通念仏宗關係本 和州法寿院正念寺所持江戸期 一〇〇〇〇
11	融通念仏宗關係本 和州法寿院正念寺所持江戸期 一〇〇〇〇
12	融通念仏宗關係本 和州法寿院正念寺所持江戸期 一〇〇〇〇
13	融通念仏宗關係本 和州法寿院正念寺所持江戸期 一〇〇〇〇
14	融通念仏宗關係本 和州法寿院正念寺所持江戸期 一〇〇〇〇
15	融通念仏宗關係本 和州法寿院正念寺所持江戸期 一〇〇〇〇
16	融通念仏宗關係本 和州法寿院正念寺所持江戸期 一〇〇〇〇
17	融通念仏宗關係本 和州法寿院正念寺所持江戸期 一〇〇〇〇
18	融通念仏宗關係本 和州法寿院正念寺所持江戸期 一〇〇〇〇
19	融通念仏宗關係本 和州法寿院正念寺所持江戸期 一〇〇〇〇
20	融通念仏宗關係本 和州法寿院正念寺所持江戸期 一〇〇〇〇
21	融通念仏宗關係本 和州法寿院正念寺所持江戸期 一〇〇〇〇
22	融通念仏宗關係本 和州法寿院正念寺所持江戸期 一〇〇〇〇
23	融通念仏宗關係本 和州法寿院正念寺所持江戸期 一〇〇〇〇
24	融通念仏宗關係本 和州法寿院正念寺所持江戸期 一〇〇〇〇
25	融通念仏宗關係本 和州法寿院正念寺所持江戸期 一〇〇〇〇
26	融通念仏宗關係本 和州法寿院正念寺所持江戸期 一〇〇〇〇
27	融通念仏宗關係本 和州法寿院正念寺所持江戸期 一〇〇〇〇
28	融通念仏宗關係本 和州法寿院正念寺所持江戸期 一〇〇〇〇
29	融通念仏宗關係本 和州法寿院正念寺所持江戸期 一〇〇〇〇
30	融通念仏宗關係本 和州法寿院正念寺所持江戸期 一〇〇〇〇
31	融通念仏宗關係本 和州法寿院正念寺所持江戸期 一〇〇〇〇
32	融通念仏宗關係本 和州法寿院正念寺所持江戸期 一〇〇〇〇
33	融通念仏宗關係本 和州法寿院正念寺所持江戸期 一〇〇〇〇

〒600 京都市下京区七条通堀川角

谷書店

電話(〇七五)三六一一七六九五
振替 京都 一一一七九

1	唯識神仏感應録 二冊揃 明 30 四〇〇〇
2	淨土真宗の源流 加藤教山 明 39 五〇〇〇
3	淨土教理の解し方 藤守曉明 昭 6 二〇〇〇
4	淨土教批判の批判 原田哲雄 昭 6 一五〇〇
5	百法問答抄講義 香華院義天 大 13 八〇〇
6	阿彌陀經講義 廣陵了栄 昭 7 二五〇〇
7	七祖綱要 細川千崑 昭 7 二〇〇〇
8	淨土論講録 福田行忍 昭 7 二〇〇〇
9	觀經四帖疏論草 南條神興 昭 7 二〇〇〇
10	道綽勸信録 開悟院 昭 7 二〇〇〇
11	真宗六派年契 下間真人 昭 7 二〇〇〇
12	安心決定鈔鼓吹 了意 佐々木慧雲編 昭 7 二〇〇〇
13	入出一門偈講義 蓮元慈広 昭 7 二〇〇〇
14	未燈鈔 信行 一念章講述 法宣 昭 7 二〇〇〇
15	御淺御文法話 渥美契華 昭 7 二〇〇〇
16	自問自答御文法話 渥美契華 昭 7 二〇〇〇
17	信心獲得御文法話 渥美契華 昭 7 二〇〇〇
18	改悔文講義 佐々木慧見 昭 7 二〇〇〇
19	本願鈔略述 吉谷寛寿 昭 7 二〇〇〇
20	本願鈔決撰記 竹越徹道 昭 7 二〇〇〇
21	歩船鈔講義 開蔵院宗興 昭 7 二〇〇〇
22	嘆徳文講述 館 登 昭 7 二〇〇〇
23	真二門三礎談 小泉了諦 昭 7 二〇〇〇
24	二種深信講仰記 占部観順 昭 7 二〇〇〇
25	行信一念の見方 藤守曉明 昭 7 二〇〇〇
26	信願交際問答義決 占部観順 昭 7 二〇〇〇
27	香雲院澄玄師語録 竹越徹道編 昭 7 二〇〇〇
28	(実明院) 功存抱病隨筆 昭 7 二〇〇〇
29	密教一斑 館 登 昭 7 二〇〇〇
30	肉身成仏 昭 7 二〇〇〇

〒604 京都市中京区寺町通三条北

其 中 堂

電話(〇七五)二三二二九七一
振替 京都 二二五三八

1	日蓮聖人御遺文 靈長閣版縮刷 昭 56 一六〇〇
2	昭和定本日蓮聖人遺文 四冊揃 昭 57 二五〇〇
3	昭和定本日蓮聖人遺文 三冊揃 昭 57 二五〇〇
4	昭和定本日蓮聖人遺文 三冊揃 昭 57 二五〇〇
5	昭和定本日蓮聖人遺文 三冊揃 昭 57 二五〇〇
6	昭和定本日蓮聖人遺文 三冊揃 昭 57 二五〇〇
7	昭和定本日蓮聖人遺文 三冊揃 昭 57 二五〇〇
8	昭和定本日蓮聖人遺文 三冊揃 昭 57 二五〇〇
9	昭和定本日蓮聖人遺文 三冊揃 昭 57 二五〇〇
10	昭和定本日蓮聖人遺文 三冊揃 昭 57 二五〇〇
11	昭和定本日蓮聖人遺文 三冊揃 昭 57 二五〇〇
12	昭和定本日蓮聖人遺文 三冊揃 昭 57 二五〇〇
13	昭和定本日蓮聖人遺文 三冊揃 昭 57 二五〇〇
14	昭和定本日蓮聖人遺文 三冊揃 昭 57 二五〇〇
15	昭和定本日蓮聖人遺文 三冊揃 昭 57 二五〇〇
16	昭和定本日蓮聖人遺文 三冊揃 昭 57 二五〇〇
17	昭和定本日蓮聖人遺文 三冊揃 昭 57 二五〇〇
18	昭和定本日蓮聖人遺文 三冊揃 昭 57 二五〇〇
19	昭和定本日蓮聖人遺文 三冊揃 昭 57 二五〇〇
20	昭和定本日蓮聖人遺文 三冊揃 昭 57 二五〇〇
21	昭和定本日蓮聖人遺文 三冊揃 昭 57 二五〇〇
22	昭和定本日蓮聖人遺文 三冊揃 昭 57 二五〇〇
23	昭和定本日蓮聖人遺文 三冊揃 昭 57 二五〇〇
24	昭和定本日蓮聖人遺文 三冊揃 昭 57 二五〇〇
25	昭和定本日蓮聖人遺文 三冊揃 昭 57 二五〇〇
26	昭和定本日蓮聖人遺文 三冊揃 昭 57 二五〇〇
27	昭和定本日蓮聖人遺文 三冊揃 昭 57 二五〇〇
28	昭和定本日蓮聖人遺文 三冊揃 昭 57 二五〇〇
29	昭和定本日蓮聖人遺文 三冊揃 昭 57 二五〇〇
30	昭和定本日蓮聖人遺文 三冊揃 昭 57 二五〇〇
31	昭和定本日蓮聖人遺文 三冊揃 昭 57 二五〇〇
32	昭和定本日蓮聖人遺文 三冊揃 昭 57 二五〇〇
33	昭和定本日蓮聖人遺文 三冊揃 昭 57 二五〇〇

〒604 京都市中京区壬生下溝町七一

(仏光寺通西新道東入)

京極書房

電話(〇七五)三二五一・一五六〇

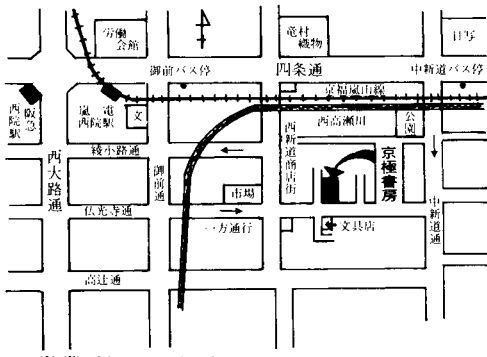
謹啓 錦秋の候、ますます御精采のこととお喜び申し上げます。
つきましては、私儀、御蔭をもちまして、このたび「北御所書房」より分離独立し、新たに「京極書房」として営業を始めました。
今後共、「北御所書房」同様ご支援ご厚情を御賜たくここにお願いいたします。

右略儀ながら書中を以つてご挨拶かたがたご案内申し上げます。

昭和五十九年十月吉日

謹言

○御注文は御面倒ですが郵便でお願い申し上げます。



営業時間 午後1時より午後9時迄
尚、火曜日・金曜日は
(午後5時より午後9時迄)
定休日 第2金曜日

○御来店のお客様へ前以つて御連絡の上御来店下さいませよう
お願い申し上げます。

〒606 京都市左京区田中大久保町22

(東大路御電交差北)

山崎書店

電話(〇七五)七二一・七二四八
振替 京都 〇一八三六

33	文房四宝	昭55	三、〇〇〇	72	酒の書物	昭15	二、〇〇〇
32	光悦翁の面影	昭10	一、〇〇〇	71	方寸 全五冊	昭14	一、〇〇〇
31	光悦 鷹峯餘韻	昭7	一、〇〇〇	70	毒 科学隨筆	昭13	一、〇〇〇
30	名工伝	昭21	一、〇〇〇	69	日本科学の勝利	昭12	一、〇〇〇
29	中国の民間工芸	昭48	一、〇〇〇	68	鳥と獣	昭11	一、〇〇〇
28	美術と工芸	昭57	一、〇〇〇	67	鳥と獣	昭10	一、〇〇〇
27	美術と工芸	昭18	一、〇〇〇	66	鳥と獣	昭9	一、〇〇〇
26	日本工芸史	昭53	一、〇〇〇	65	鳥と獣	昭8	一、〇〇〇
25	明治初期から明治中期の美術史	昭54	一、〇〇〇	64	西洋植物の研究	昭7	一、〇〇〇
24	富岡鉄斎	昭22	一、〇〇〇	63	植物形態学	昭6	一、〇〇〇
23	鉄斎研究	昭44	一、〇〇〇	62	人形芝居研究	昭5	一、〇〇〇
22	清親と安土 明治の版画家達	昭19	一、〇〇〇	61	文楽の芸術	昭4	一、〇〇〇
21	北斎と下ガ	昭46	一、〇〇〇	60	世阿弥元清	昭3	一、〇〇〇
20	北斎と下ガ	昭51	一、〇〇〇	59	童話童謡及音楽舞踊	昭2	一、〇〇〇
19	北斎と下ガ	昭19	一、〇〇〇	58	芝居入門	昭1	一、〇〇〇
18	北斎と下ガ	昭53	一、〇〇〇	57	芝居入門	昭0	一、〇〇〇
17	北斎と下ガ	昭40	一、〇〇〇	56	芝居入門	昭0	一、〇〇〇
16	北斎と下ガ	昭19	一、〇〇〇	55	芝居入門	昭0	一、〇〇〇
15	北斎と下ガ	昭40	一、〇〇〇	54	芝居入門	昭0	一、〇〇〇
14	北斎と下ガ	昭19	一、〇〇〇	53	芝居入門	昭0	一、〇〇〇
13	北斎と下ガ	昭40	一、〇〇〇	52	芝居入門	昭0	一、〇〇〇
12	北斎と下ガ	昭19	一、〇〇〇	51	芝居入門	昭0	一、〇〇〇
11	北斎と下ガ	昭40	一、〇〇〇	50	芝居入門	昭0	一、〇〇〇
10	北斎と下ガ	昭19	一、〇〇〇	49	芝居入門	昭0	一、〇〇〇
9	北斎と下ガ	昭40	一、〇〇〇	48	芝居入門	昭0	一、〇〇〇
8	北斎と下ガ	昭19	一、〇〇〇	47	芝居入門	昭0	一、〇〇〇
7	北斎と下ガ	昭40	一、〇〇〇	46	芝居入門	昭0	一、〇〇〇
6	北斎と下ガ	昭19	一、〇〇〇	45	芝居入門	昭0	一、〇〇〇
5	北斎と下ガ	昭40	一、〇〇〇	44	芝居入門	昭0	一、〇〇〇
4	北斎と下ガ	昭19	一、〇〇〇	43	芝居入門	昭0	一、〇〇〇
3	北斎と下ガ	昭40	一、〇〇〇	42	芝居入門	昭0	一、〇〇〇
2	北斎と下ガ	昭19	一、〇〇〇	41	芝居入門	昭0	一、〇〇〇
1	北斎と下ガ	昭40	一、〇〇〇	40	芝居入門	昭0	一、〇〇〇

国訳密教・経軌部

全五巻

権田雷斧・塚本賢曉らの碩徳による平易懇切な訳文と註記により、密教の本経と儀軌を網羅。（既刊『事相部』『論釈部』） 揃定価三八〇〇〇円

仏教と民俗宗教

伊藤唯真著／大陸伝来の仏教が、民間受容の過程において、いかに民俗宗教と融合し独自の「日本仏教」を形成したかを論ず。 定価八〇〇〇円

写経願文大成

有賀要延編著／古典的写経願文二六〇点をわかりやすく書下し解説、写経体見本を写真添付。 作例・要句集を付す。 定価二〇〇〇〇円

真宗聖典講讃全集

全八巻 宇野円空編
揃五六〇〇〇円

真宗講座

全十巻 真宗典籍刊行会編
揃四二〇〇〇円

仏像大系

全十巻 国書刊行会編
揃五五〇〇〇円

図印大鑑

全一巻 国書刊行会編
八八〇〇円

国書刊行会 千七百 東京都豊島区巣鴨三・五・八 〇〇三（917）8287
小社の書籍は注文制です。お近くの書店にお申し込み下さい。

大日本仏教全書

全二六二冊

仏書刊行会 編

一冊一万一千円にて好評分売中!!

詳しくは弊社までお問い合わせ下さい。

▼全巻セット定価一七七一、〇〇〇円

仏像仏典解説事典

三井晶史 編

▼特価一〇、〇〇〇円（59年12月末迄）／全一冊

戯曲小説近世作家大観

鈴木行三 編著

▼特価一〇、〇〇〇円（59年11月末迄）／全一冊

●好評既刊

■禅籍善本古注集成

從容録 一三三、〇〇〇円
無門関 一八、〇〇〇円

宏智録（上） 二〇、〇〇〇円

▼桜井秀雄監修 永井政之他編
梵字大鑑 二五、〇〇〇円

▼種智院大学密教学会編
哲学字彙 全三冊

▼井上哲次郎他編 一四、〇〇〇円

外来語研究 全一冊

▼外来語研究会編 二〇、〇〇〇円

日本外来語辞典 全一冊

▼上田萬年他編 八、〇〇〇円

漢英対照いろは辞典 全一冊

▼高橋五郎著 二五、〇〇〇円

増補 日本社会経済史論考 全一冊

▼瀧川政次郎著 二〇、〇〇〇円

日本法制史研究 全一冊

▼瀧川政次郎著 一一、五〇〇円

源氏物語講話 全六冊

▼島津久基著 三三、〇〇〇円

群書類従索引 全二冊

▼塙保己一編 二〇、〇〇〇円

話の大事典 全四冊

▼日置昌一著 二五、〇〇〇円

語源辞典 全一冊

▼新井白石著 一四、〇〇〇円

増補 六国史 全七冊

基本的名著の再評価と普及
名著普及会

■ご注文は直接下記までお願いします
〒152 東京都目黒区平町1-16-6
TEL 03(724)8031

■商品を無料で配送
■代金後払い

内容見本請求はF〇係まで

日本仏教美術史研究

中野玄三著

観音の造形から玄奘三蔵絵まで。広い歴史的視野に立ち、絵画と彫刻の両分野に亘り独自の仏教美術史論を展開してきた著者積年の諸論文。細分化傾向の中での総合的主張はきわめてユニーク。広く美術史・仏教史更に文化史研究に必須の書。▼A5判・五七〇頁・写真一〇九点／定価二二〇〇〇円

論集 空海と綜芸種智院

弘法大師の教育・上巻可
論集 空海といろは歌 教育・下巻可

久木幸男・小山田和夫編

本書では明治以後発表された論文により庶民教育の先駆者空海の全貌を明かす。上巻はその教育思想及び綜芸種智院に関する論文28篇。下巻では「いろは歌」「実語教」の作者に関する論文27篇収録。下巻末に「弘法大師空海の教育関係文獻目録」を付す。▼A5判 平均四〇〇頁／予価各一〇、〇〇〇円

都道府県教育史シリーズ

石川松太郎・津田秀夫監修(全四十七巻)

古代から明治前期までの通史の体裁をとりながら、各地域の特色ある教育・文化を紹介し、寺子屋・郷学校・私塾・藩校などの教育施設のほか、広く社会・宗教・産業教育などにふれる。そして各地域の教育・文化に貢献した人物をとりあげ、教育的事跡を明らかにしながら、それを歴史の全体像のなか位置づけ、その役割と意味をさぐっていく。付録として教育史年表・史料紹介・教育史地図なども収録。▼四六判・平均二八〇頁／定価一、七〇〇円(一冊一〇〇〇円)

既刊

京都府の教育史

衣笠安喜編著

愛知県の教育史

吉永昭著

大分県の教育史

鹿毛基生著

長崎県の教育史

外山幹夫著

福岡県の教育史

三上一夫著

徳島県の教育史

大嶋龍一編著

愛媛県の教育史

影山義巳著

福岡県の教育史

井上義巳著

秋田県の教育史

戸田金一著

神奈川県の教育史

石川松太郎編著

近世私塾の研究

海原徹著
広瀬淡窓、本居宣長、杉田玄白、シーボルト、緒方洪庵、吉田松陰ほかの近世の代表的な私塾の動態と人的交流を総合的かつ体系的に解明・分析し、その果たした役割と意義を探り、近代への胎動を追及した初の本格的な研究書。写真・図版多数収録。▼A5判・六二〇頁／定価二二〇〇〇円

思文閣出版

本社 京都市左京区田中関町 2-7
〒606 (075) 751-1781

支社 東京都千代田区三崎町 2-20
〒101 (03) 263-6348

臨川書店創業50周年記念出版

新撰京都叢書

新撰京都叢書刊行会 編 全十二巻

江戸時代後半から、明治

第一回配本『好評発売中』

・大正にかけての京都に関

第7巻『商人買物独案内』

する地誌・名所案内記の類

天保二年、嘉永四年の両版を影

51種を厳選、綿密な校訂に

印復刻する。内容は、商品とい

よる翻刻を施して、史料・

ろは順に分類し、関係する商店

地誌・物産・花街・人名・

や品物を紹介しており、買手の

風俗・変災の部類別に集成。

便を図るとともに、売手の宣伝

また第11巻には古地図8枚

誌の役割を果たしている。

を、第12巻には人名・地名

(以下隔月一冊刊)

索引を配して全12巻の一大

編集委員

叢書とした。先に刊行した

野間光辰

「新修京都叢書」に続き、

森谷勉久・村井康彦

京都研究の基本史料として

宮垣克己・大塚隆

のみならず、近世史、近世

A5判/10ポ2段組

文学研究の手掛りとしても

付解題/平均460頁

貴重な叢書である。

総クロス装/ケース入

定価

各巻八、〇〇〇円／八五〇〇円

◎全巻セット予約者に限り

お頒ちいたします



臨川書店

本社 京都市左京区今出川通川端東入50M
東京支店 千代田区神田駿河台一―一六
☎075-721-7111
☎03-263-5021

詳しくは小社営業部まで